

学校選択制の現状に関する調査・分析結果について（都島区）

1 目的

大阪市では、大阪の教育力の向上、充実を図り、教育の振興を推進し、子どもたちの最善の利益を図るため、子どもや保護者の意向に答えていく必要があるとの観点から、平成24年度に学校選択制の制度化を行いました。

地域の実情に即した制度とするため、具体的な制度の方針案を区ごとに策定し、平成26年度入学者から小学校6区、中学校12区で開始。その後、順次、実施してきており、平成31年度入学者からは、小学校・中学校ともすべての区で実施しています（生野区の一部を除く）。学校選択制を利用して通学区域外の学校に就学した児童生徒の割合についても、年々増加している状況となっており、制度として定着してきていますが、制度の導入から年数が経過していることから、検証を行う必要があります。

都島区では、平成27年度の制度導入時に小学校で学校選択制を利用した児童・保護者が、令和3年度に初めて中学校入学時に学校選択制を利用することとなることから、このタイミングを捉え、制度導入時に期待されていたメリットや懸念されていた課題について、今後の各区及び市全体において必要な改善を行うための材料の一つとして役立てるために、調査・分析を行いました。

2 調査・分析の視点

調査・分析にあたっては、学校選択制導入時に期待されたメリットや懸念された課題をふまえ、今後の大阪市の学校選択制を考える上で考慮すべき項目として、次の項目が全区共通の調査・分析の視点として設定されました。

- 【視点①】 学校選択制の満足度はどうか
- 【視点②】 子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができているか
- 【視点③】 子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったか
- 【視点④】 特色ある学校づくりが進んだか
- 【視点⑤】 開かれた学校づくりが進んだか
- 【視点⑥】 児童生徒の通学の安全に課題が生じていないか
- 【視点⑦】 学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないか
- 【視点⑧】 区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないか
- 【視点⑨】 学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないか

3 調査・分析データ

大阪市では、制度導入の平成26年度より毎年保護者アンケートを実施し、保護者の学校選択理由などを経年的に把握しているところです。

今回の調査・分析を行うにあたり、9項目の「調査・分析の視点」を設定し、各項目の分析に必要な質問を従来の保護者アンケートに追加するとともに、新たに地域団体関係者を対象とするアンケート調査、小中学校を対象とする学校選択制の状況調査を行いました。また、制度導入時からの、学校選択の状況や希望調査票の提出状況についてもとりまとめ、分析に活用しています。

【アンケート調査】

保護者アンケート＝令和3年度に区内の市立小中学校に入学した児童生徒の保護者全員を対象に実施

※学校選択制導入時（平成27年度）～昨年度（令和2年度）に入学した児童生徒の保護者全員に実施したアンケート調査結果も使用。

地域団体関係者アンケート＝1つの小・中学校あたり3サンプルを目安に、各地域活動協議会役員等を対象に実施。

【学校状況調査】

区内の全市立小学校・中学校を対象に実施

【運用状況データの活用】

学校選択制によって通学区域外の学校に就学した者の割合、希望調査票の提出状況など

4 アンケート調査等の実施時期・回収方法など

【保護者アンケート】

令和3年5月中旬に区役所から学校を通じてアンケートを保護者に配付。
回収は区役所あて6月9日までに返信用封筒で送付。アンケートは無記名。

【地域団体関係者アンケート】

令和3年度に、各地域活動協議会あて依頼し、配付・回収。

【学校状況調査】

令和3年度に、1つの学校あたり1枚の調査用紙を配付し、回収。

5 アンケート回収状況

(保護者アンケート)

| | 配布数 | 回収数 | 回収率 |
|-----|-----|-----|-------|
| 小学校 | 799 | 490 | 61.3% |
| 中学校 | 700 | 355 | 50.7% |

(地域団体関係者アンケート)

| | 配布数 | 回収数 | 回収率 |
|---------|-----|-----|-------|
| 地域団体役員等 | 27 | 25 | 92.6% |

(学校調査)

| | 配布数 | 回収数 | 回収率 |
|-----|-----|-----|--------|
| 小学校 | 9 | 9 | 100.0% |
| 中学校 | 5 | 5 | 100.0% |

6 調査・分析結果

3ページ～26ページのとおり

※本報告書の構成について

本報告書では、「調査・分析の視点」の各項目にそって、アンケート結果および学校状況調査、運用状況データの調査・分析結果をとりまとめています。
アンケート結果にかかる報告書への掲載データは、一部抜粋して示しています。各アンケートにおける結果の詳細については、「資料編」をご覧ください。

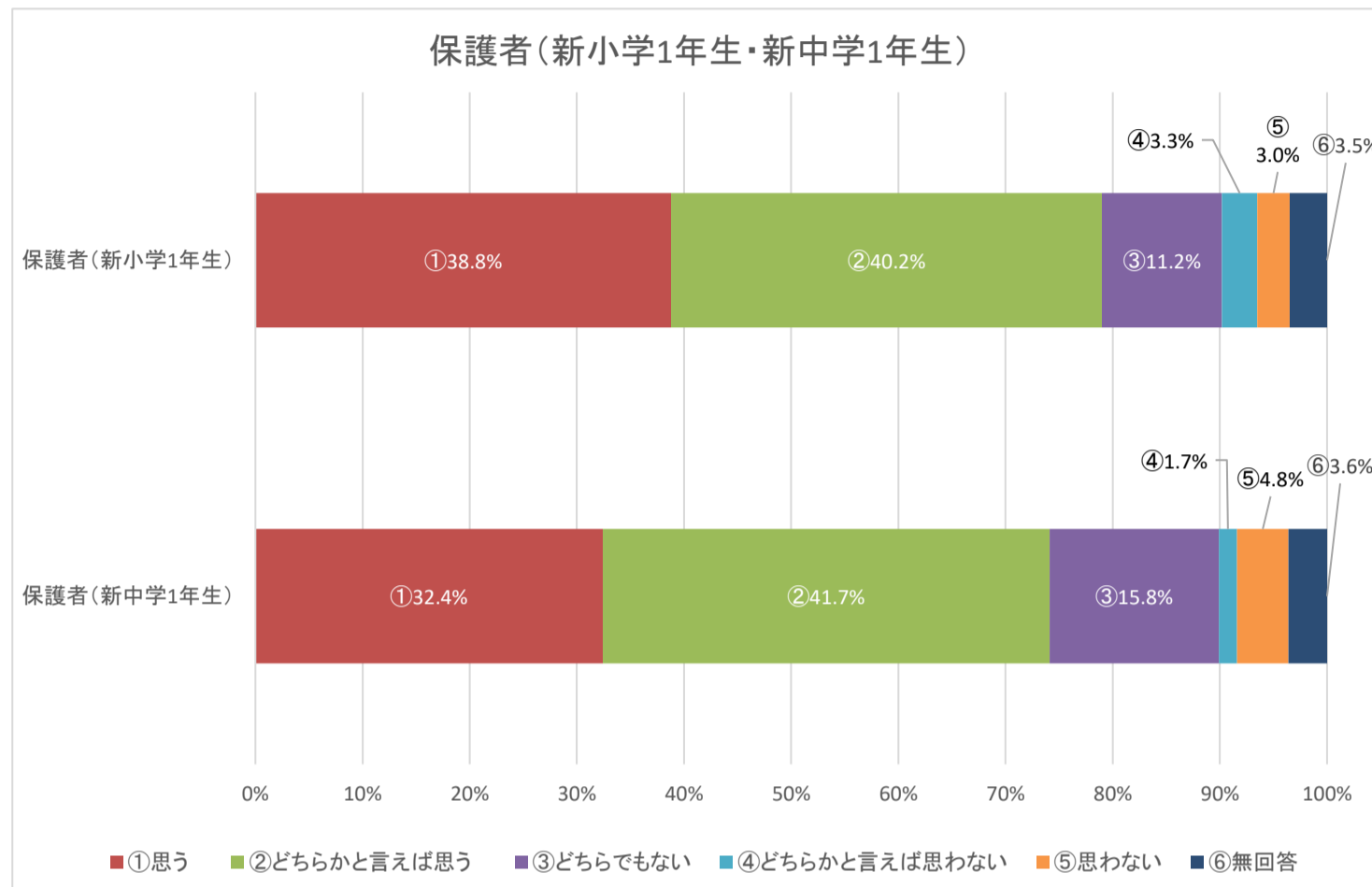
調査・分析内容

【視点①】 学校選択制の満足度はどうか

①学校選択制は、大阪市の子どもや保護者、大阪市の学校教育にとって良い制度だと思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問20、保護者アンケート(新中学1年生):問27】<1つだけ回答>

ア)全体



【理由】

○学校選択制は良い制度だと思う(抜粋)

- ・希望する学校に通える方が良いから。(学校までの距離など)
- ・自分の子どもが通う小学校に対して興味を持つきっかけとなる。
- ・校区内の学校より校区外の学校の方が近い家庭もあると思うので、通学面から安全で安心できる学校を選べるのは良い。
- ・学校間で比較できるので、よりよいサービスの提供を心がけようとする学校側の努力が期待できる。
- ・強い部活に参加したい等の理由でも中学校を選択できるのはよい機会だと思う。

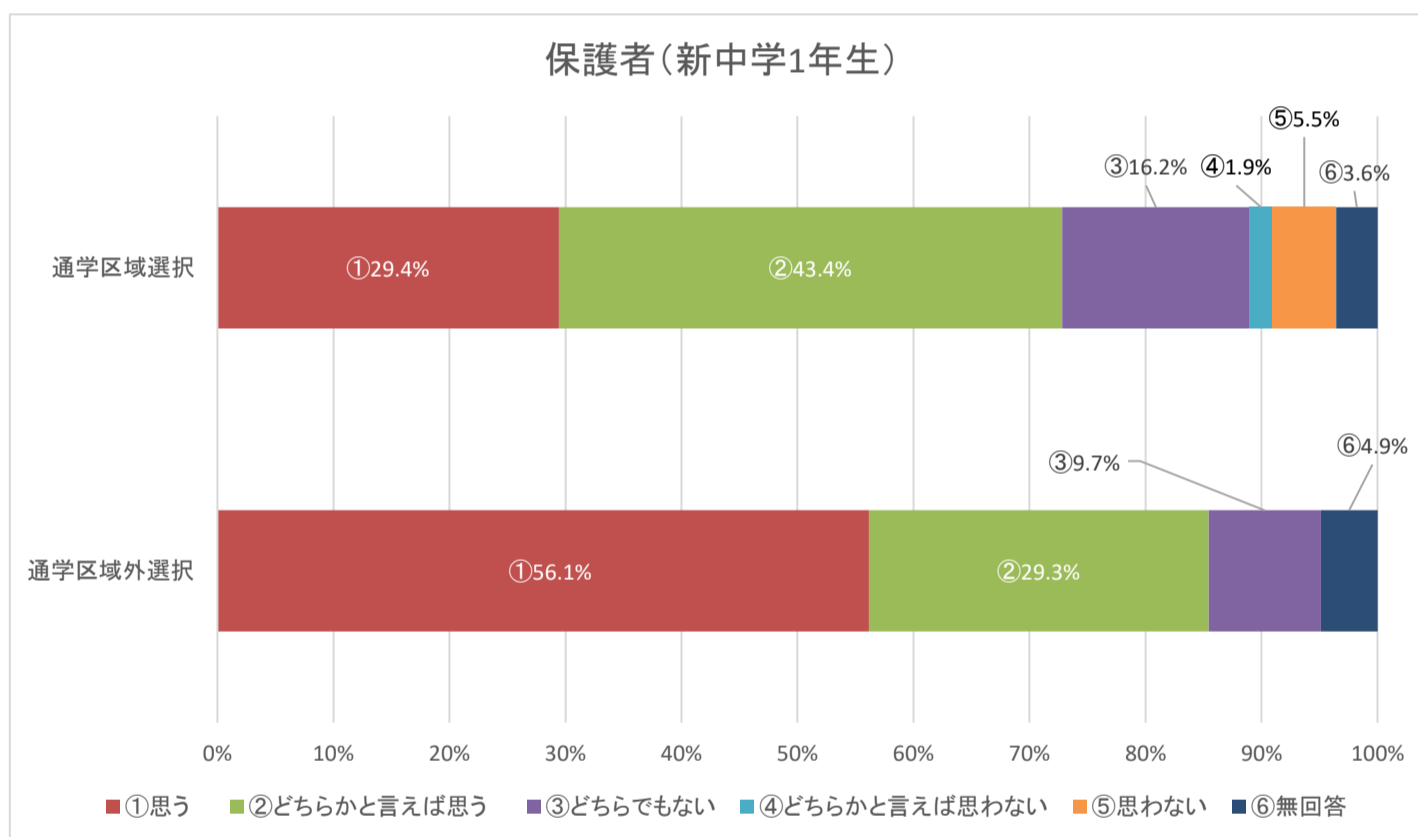
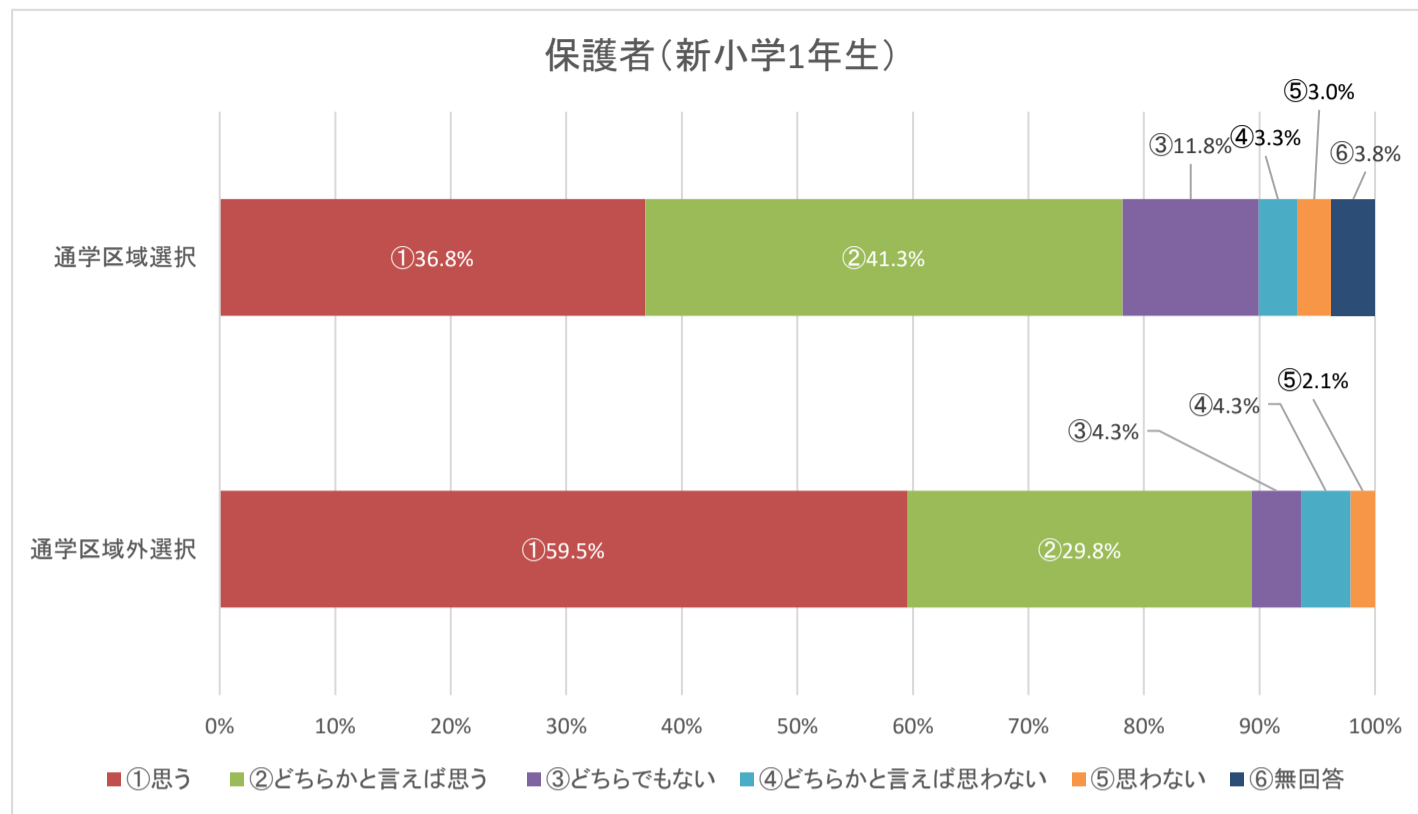
○学校選択制は良い制度だと思わない(抜粋)

- ・子供会などこの地域に入ればいいのか分からない。
- ・選択しなくても、同じレベルで同じ教育が受けれるようになれば、選択してなくて良くなるのではないか。
- ・各小学校の区別が出来るため、選択制は良くないと思う。
- ・校区外から来る子どもが増えることにより、物質的な環境等に偏りが生じる。先生方の負担も増える。
- ・人気のない小学校、中学校は人が少なすぎる。

(分析)

希望する学校に通えるなどの理由により、学校選択制に肯定的な回答をした「①思う」、「②どちらかと言えば思う」保護者の割合が、小学校：79.0%、中学校：74.1%となっており、全体として、学校選択制は良い制度であると考えている保護者が多いが、子ども会などの地域活動への参加に戸惑ったり、学校間に差が生じることに懸念を示す意見もある。

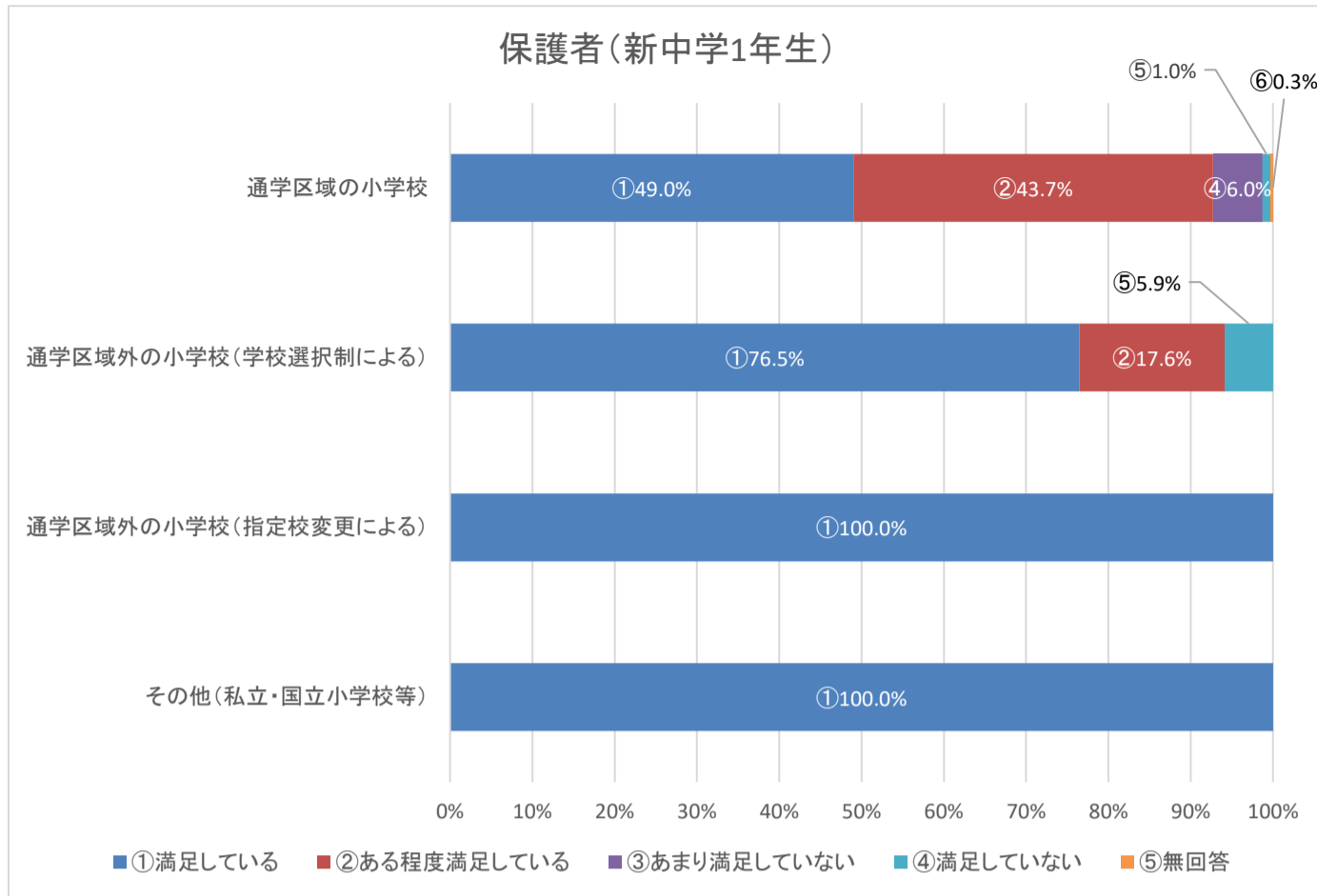
イ) 通学区域・通学区域外別



(分析)
 学校選択制に肯定的な回答をした「①思う」、「②どちらかと言えば思う」保護者の割合は、通学区域（小学校：78.1%、中学校：72.8%）よりも、通学区域外（小学校：89.3%、中学校：85.4%）の学校を選択した保護者の方が高い。

②あなたのお子さんが卒業した小学校について満足していますか。

【保護者アンケート(新中学1年生):問19】<1つだけ回答>



【理由】

○①満足している、②ある程度満足している（抜粋）

- ・学校から家が近い為
- ・校区の学校は遠く、通学させていたら心配だったと思うので選択制にして近くの小学校へ通わせて良かった。
- ・ホームページやプリントの配布で学校での子供達の様子が楽しく伝えられていた。

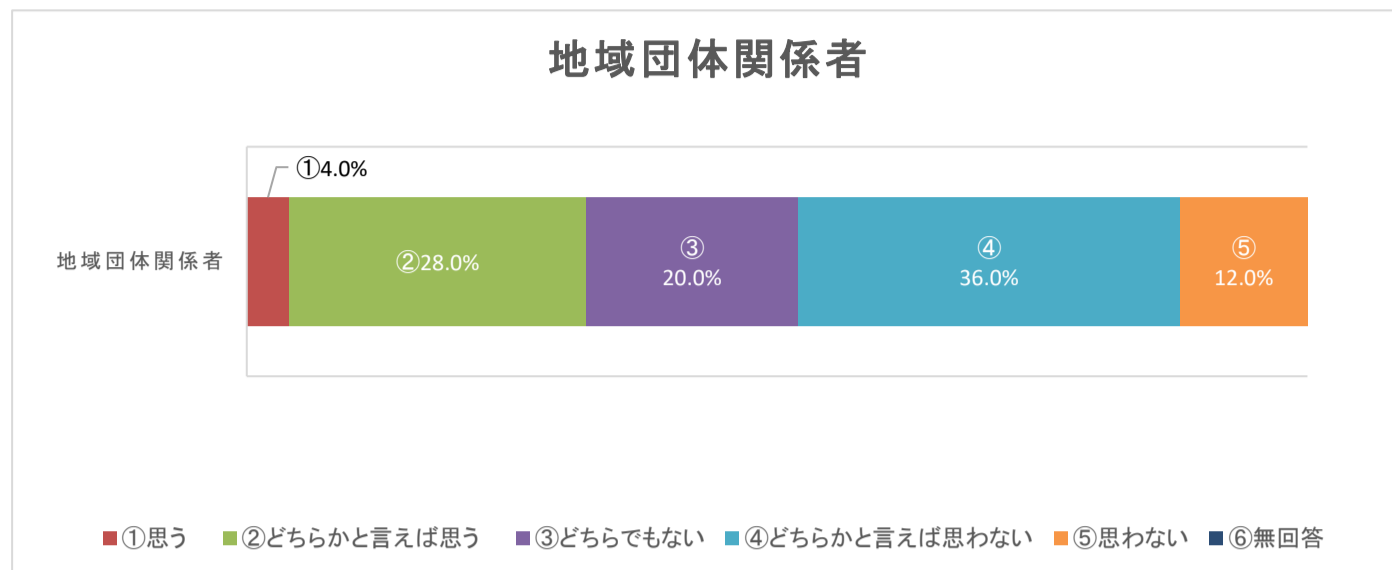
○③あまり満足していない、④満足していない（抜粋）

- ・人数が多すぎて行事が少なかったので。
- ・以前の小学校（大阪市）に比べて学校のバックアップが無い為

（分析）
 「①満足している」、「②ある程度満足している」を合計した割合は、いずれの通学先でも9割以上と非常に高いが、「①満足している」だけで見ると、通学区域よりも通学区域外の小学校に子どもが通っている保護者の方が多く、より満足度が高い傾向を示している。

③学校選択制は、大阪市の子どもや保護者、大阪市の学校教育にとって良い制度だと思いますか。

【地域団体関係者アンケート:問6】<1つだけ回答>



【理由】

○学校選択制は良い制度だと思う（抜粋）

- 子どもにとって、学校が選択できることは、不登校防止にも貢献できると思う。
- 教育の自由意志が達成できると思う。

○学校選択制は良い制度だと思わない（抜粋）

- 子どもの教育には良い面もあるが、地域外から来る保護者には、地域との連携をとる意識はない。
- 学校選択制を実施する理由がわからない。人数の少ない学校から人数の多い学校へかわる必要はない。
- 地域外の子供がわからない。

○どちらでもない（抜粋）

- 地域で子供会の活動があるのなら、選択制はマイナスの要素になるが、いじめなどがあった時、別の場所を選べるという利点もあると思われる。

【視点①総括】

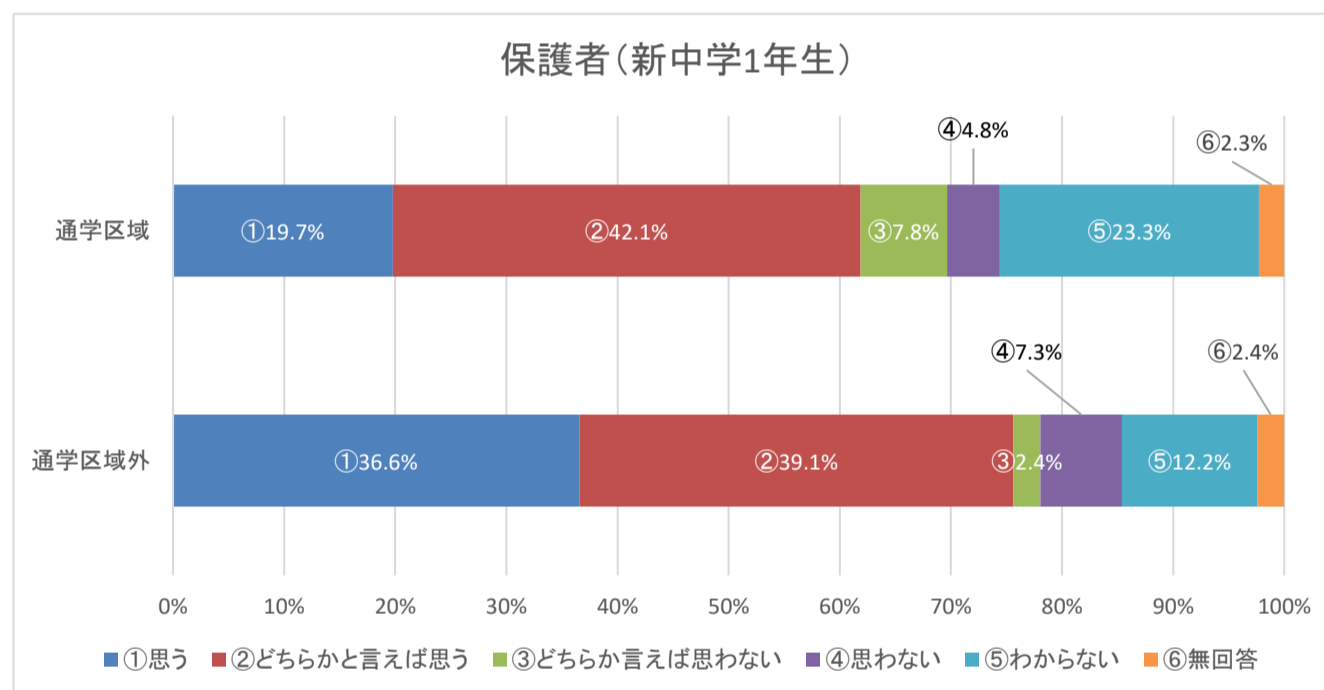
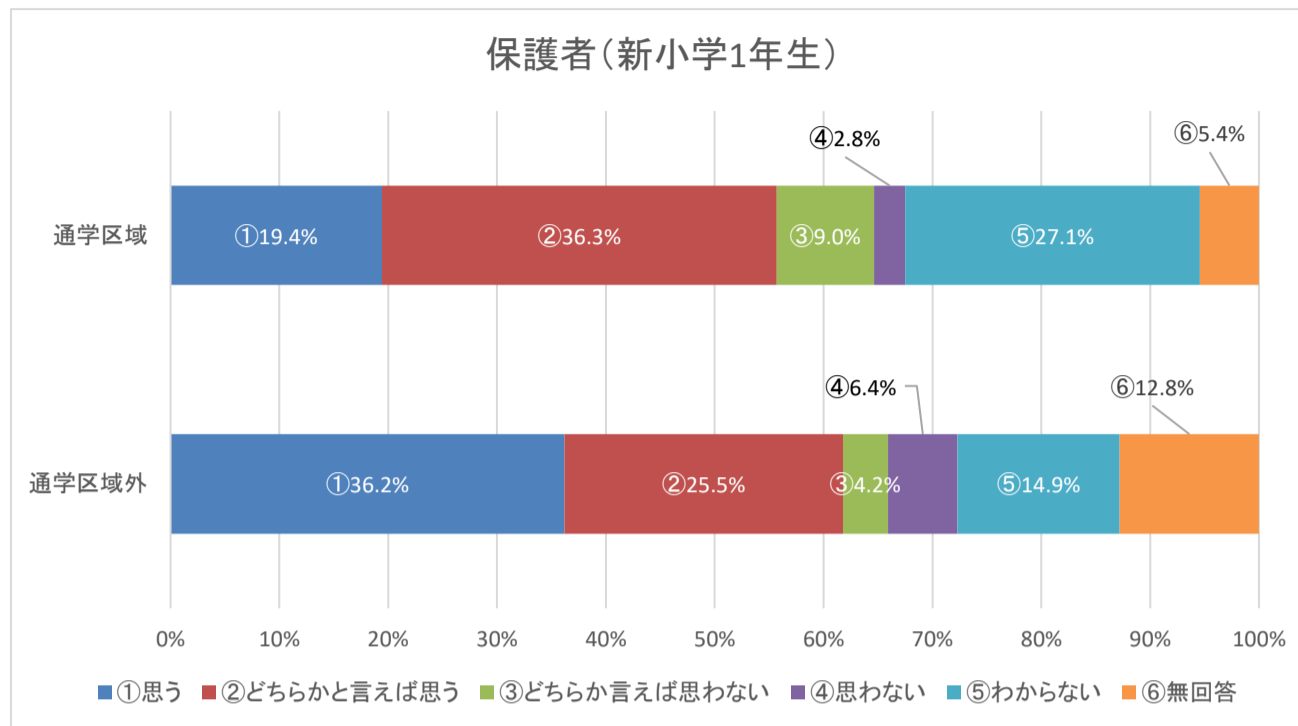
学校選択制について、保護者は肯定的回答が多く、なかでも通学区域よりも通学区域外の学校を選択した保護者の方が満足度が高かった。

地域団体関係者においては、学校選択制が良い制度だと「①思う」、「②どちらかと言えば思う」の割合（32%）よりも、「④どちらかと言えば思わない」、「⑤思わない」の割合（48%）の方が高く、保護者との連携、地域活動への参加などに課題を感じている。

【視点②】子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができているか

①学校選択制によって、子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問18、保護者アンケート(新中学1年生):問22】<1つだけ回答>



(分析)

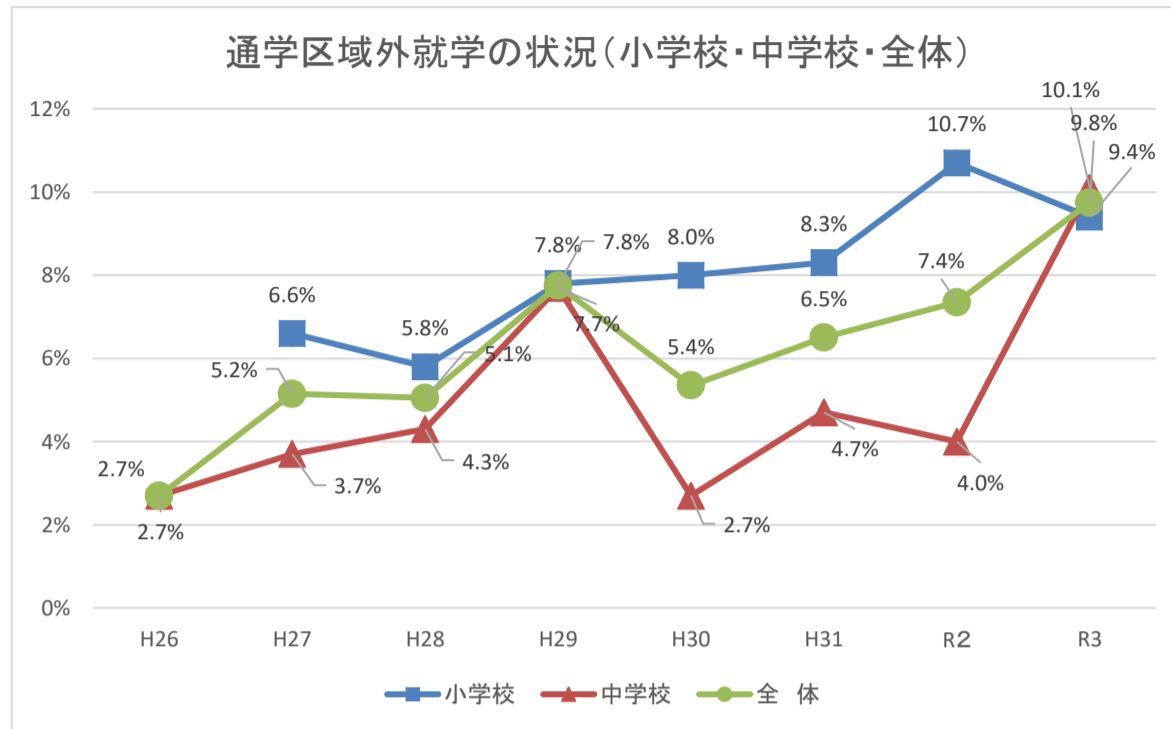
「①思う」、「②どちらかと言えば思う」保護者の割合は、通学区域（小学校：55.7%、中学校：61.8%）よりも、通学区域外（小学校：61.7%、中学校：75.7%）の学校を選択した保護者の方が高い。

特に「①思う」だけで比べると、通学区域（小学校：19.4%、中学校：19.7%）よりも、通学区域外（小学校：36.2%、中学校：36.6%）が約2倍と大きく上回っており、子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができていると感じている。

②学校選択制による通学区域外の学校への就学の状況

【運用状況データの活用】

大阪市立の小学校・中学校に入学した者のうち、学校選択制で通学区域外の学校に入学した者の割合。



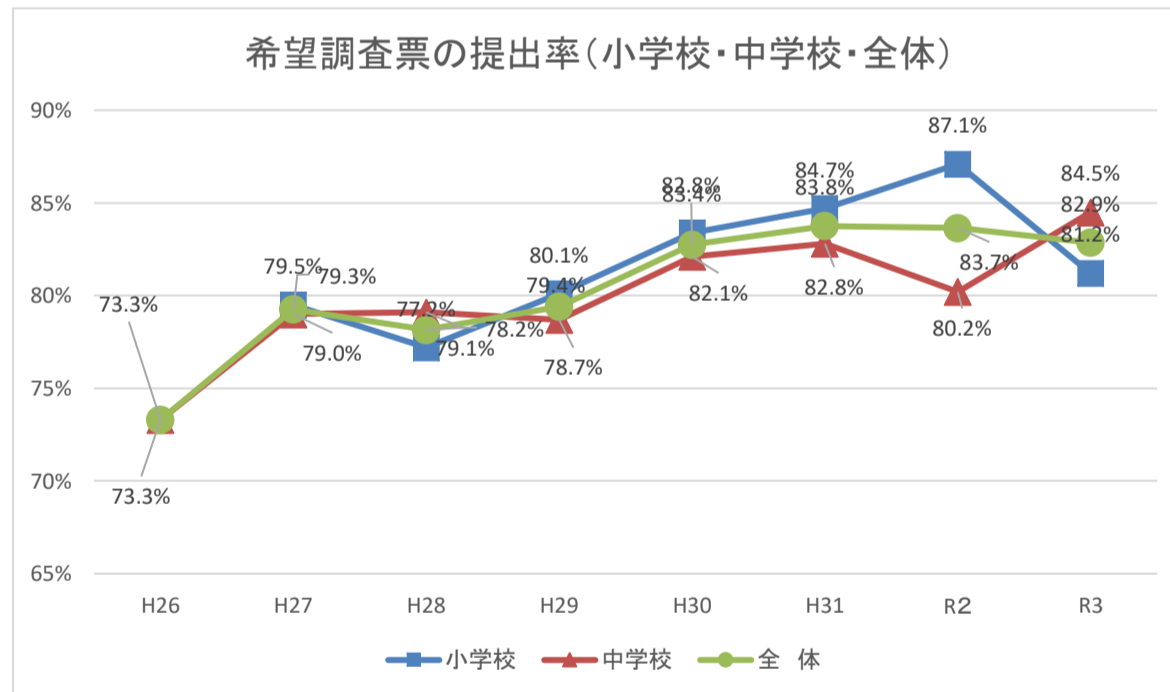
(分析)

学校選択制の導入以降、当該制度を利用して通学区域外の学校に入学した者の割合は増加傾向にあり、令和3年度には小学校で9.4%、中学校で10.1%となっている。

③希望調査票の提出率

【運用状況データの活用】

大阪市立の小学校・中学校に入学した者のうち、学校選択制の希望調査票を提出した者の割合。



(分析)

学校選択制の希望調査票を提出した者の割合は増加傾向にあり、令和3年度には小学校で81.2%、中学校で84.5%となっている。

【視点②総括】

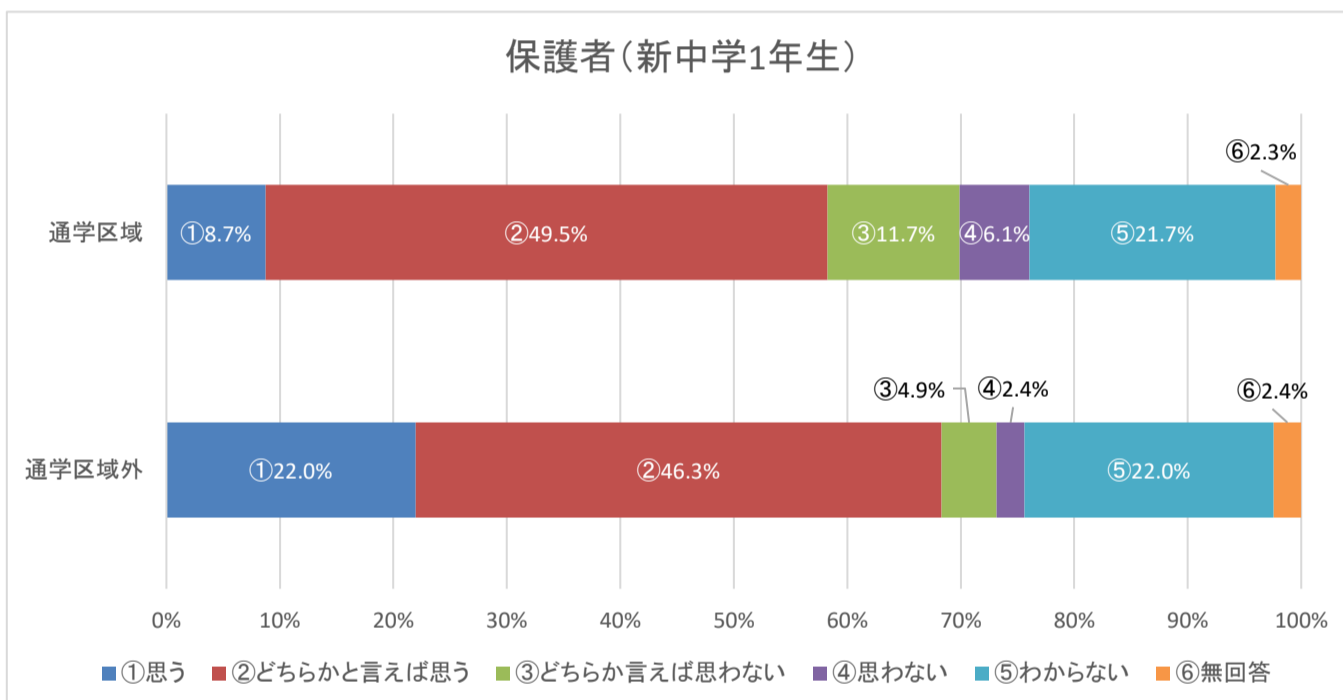
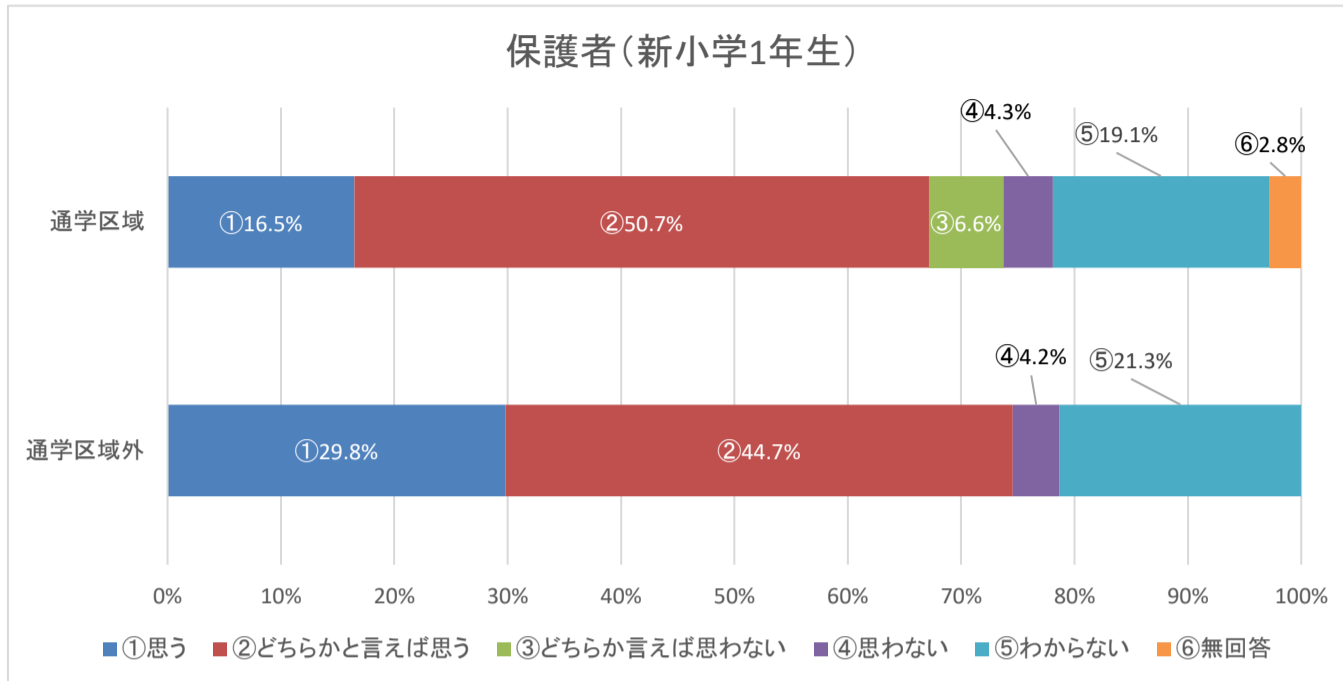
学校選択制を利用して通学区域外の学校に入学した者の割合が増加傾向にあり、その保護者は、子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができていると感じている割合が、通学区域の学校に入学した子どもの保護者よりも高い。

また、学校選択制の希望調査票の提出率も増加傾向にあることから、学校選択制が、区民により一層浸透しつつあることが分かる。

【視点③】子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったか

①学校選択制によって、子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますか。

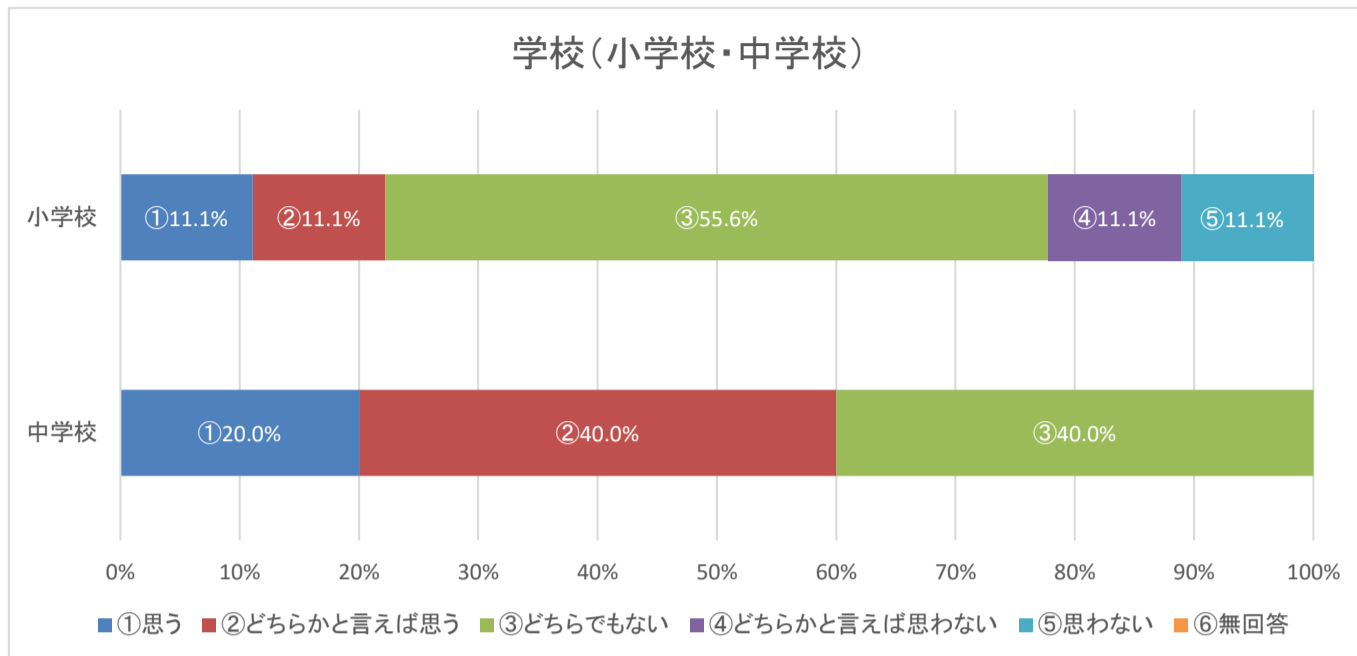
【保護者アンケート(新小学1年生):問19、保護者アンケート(新中学1年生):問23]<1つだけ回答>



(分析)
 「①思う」、「②どちらかと言えば思う」保護者の割合は、通学区域(小学校:67.2%、中学校:58.2%)よりも、通学区域外(小学校:74.5%、中学校:68.3%)の学校を選択した保護者の方が高い。
 特に「①思う」だけで比べると、通学区域(小学校:16.5%、中学校:8.7%)よりも、通学区域外(小学校:29.8%、中学校:22.0%)と大きく上回っており、学校選択制によって、学校教育に深い関心を持つようになったと感じている。

②学校選択制によって、あなたの学校において子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますか。

【学校状況調査:問1】<1つだけ回答>



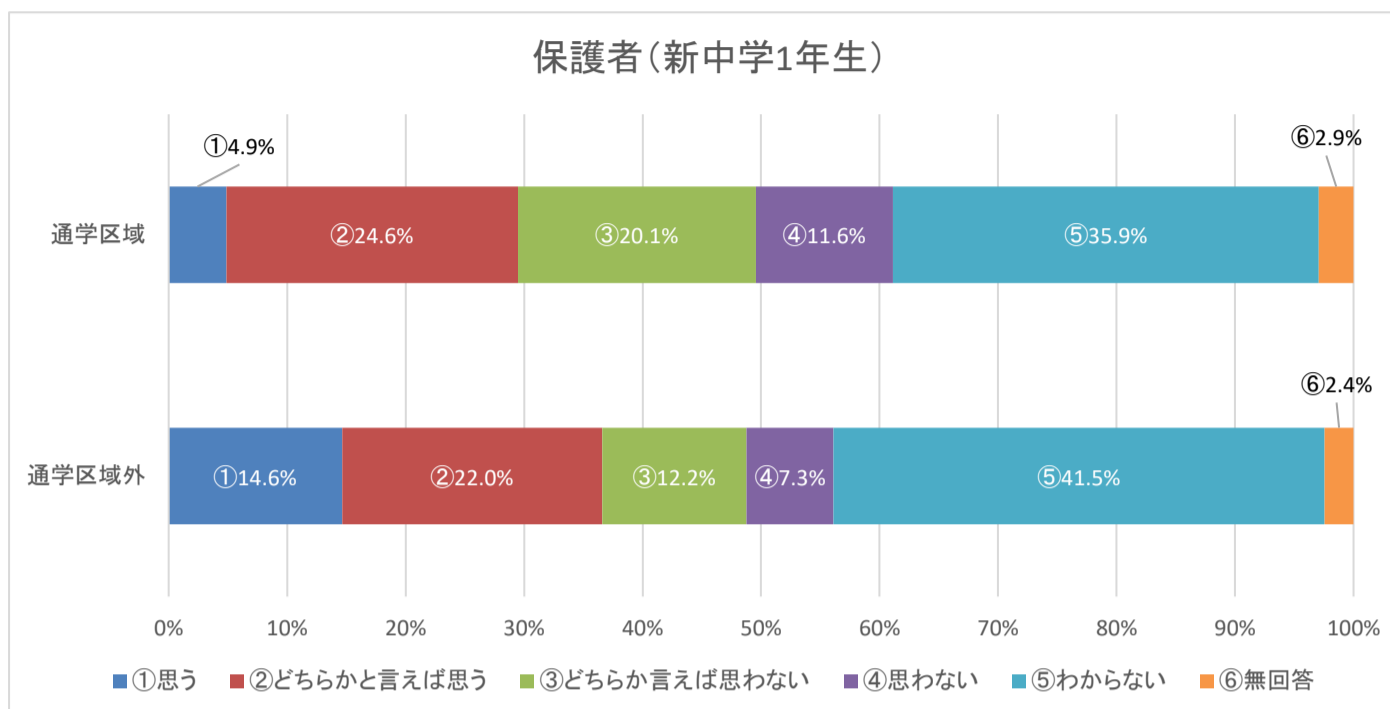
(分析)
小学校は、肯定的な回答、否定的な回答とも約2割と少なく、「③どちらでもない」が55.6%となっている。また中学校では、「①思う」、「②どちらかと言えば思う」割合が60.0%と肯定的な回答が多く、「③どちらでもない」が40.0%となっており、学校によって状況が異なっていることが分かる。

【視点③総括】
全体的に見ると、学校選択制によって、子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思う保護者が多いものの、学校によってその状況が異なっていることが分かる。

【視点④】 特色ある学校づくりが進んだか

① 学校選択制によって、特色ある学校づくりが進んだと思いますか。

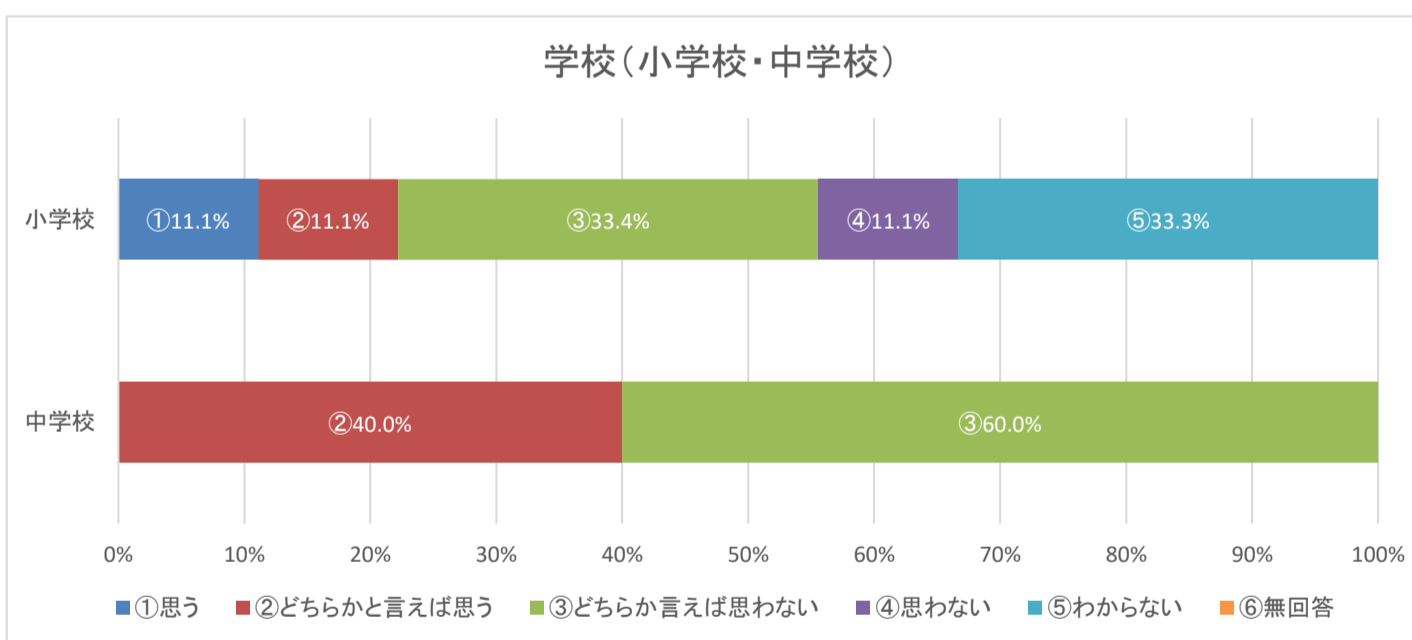
【保護者アンケート(新中学1年生):問24】<1つだけ回答>



(分析)
 学校選択制による特色ある学校づくりについて、肯定的な回答をした割合は、通学区域外の学校を選択した保護者の方が多く、否定的な回答をした割合は、通学区域の学校を選択した保護者の方が多い。
 また、通学区域、通学区域外とも、「⑤わからない」と答えた保護者の割合が最も多い。

② 学校選択制によって、あなたの学校における特色ある学校づくりが進んだと思いますか。

【学校状況調査:問3】<1つだけ回答>



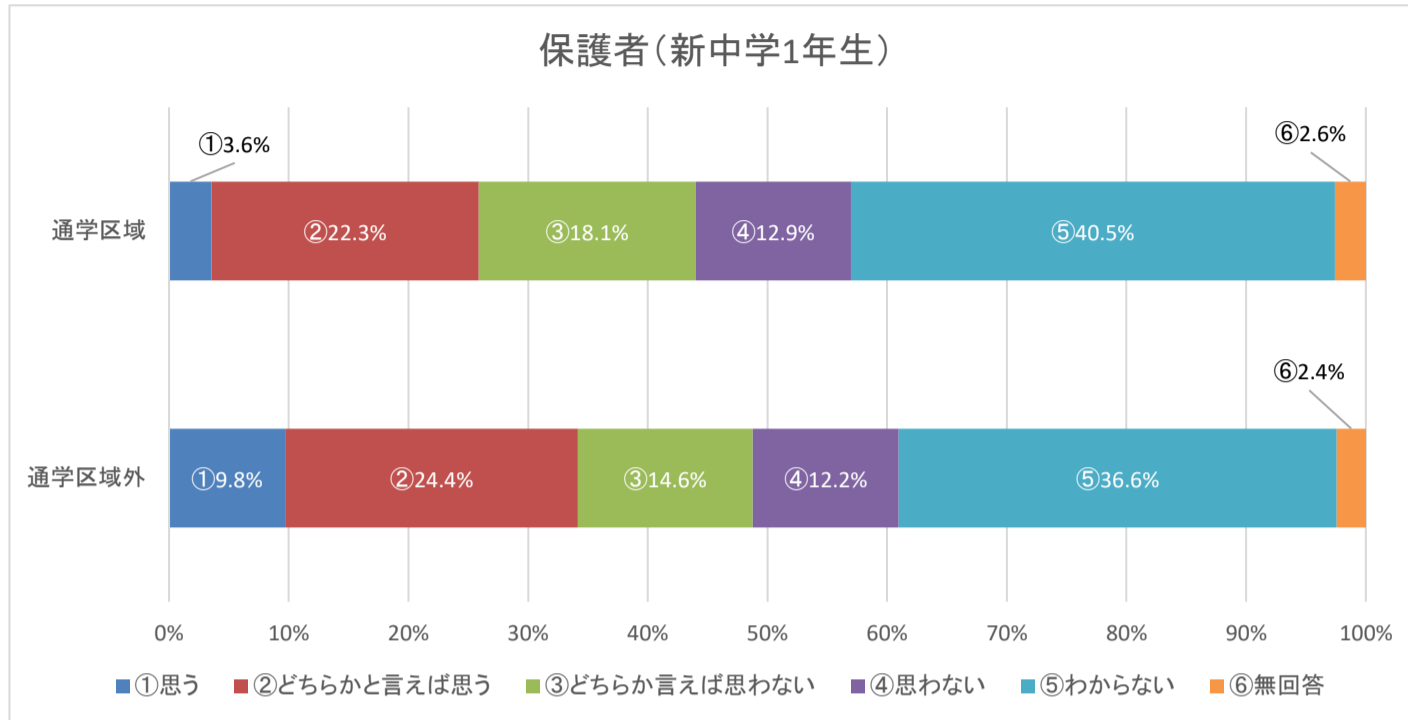
(分析)
 学校選択制による特色ある学校づくりについて、小学校では否定的な回答が44.5%と最も多く、次いで「⑤わからない」が33.3%、肯定的な回答が22.2%となっている。中学校では否定的な回答が60.0%と多く、肯定的な回答が40.0%となっており、小中学校ともに肯定的な回答に比べ否定的な回答が比較的多い。

【視点④総括】
 学校選択制による特色ある学校づくりについて、保護者は「⑤わからない」との回答が最も多かったが、通学区域外の学校を選択した保護者は肯定的な回答が、通学区域の学校を選択した保護者では否定的な回答が比較的多かった。
 また、小中学校では肯定的な回答に比べ否定的な回答が比較的多かった。

【視点⑤】開かれた学校づくりが進んだか

①学校選択制によって、学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開など）が充実してきたと思いますか。

【保護者アンケート(新中学1年生)：問25】<1つだけ回答>

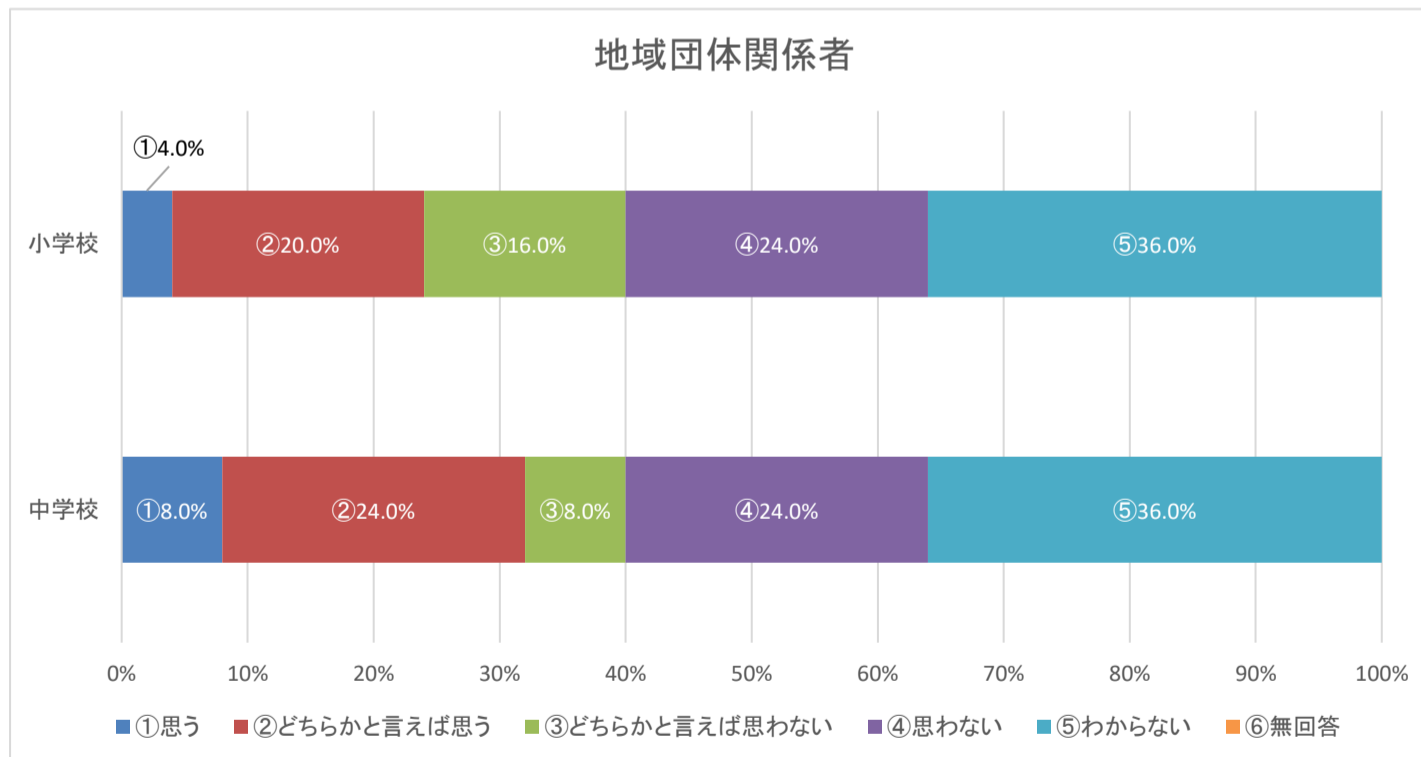


(分析)

通学区域、通学区域外とも、「⑤わからない」との回答が最も多い。また、通学区域の学校を選択した保護者は、肯定的な回答より否定的な回答が5.1%多く、通学区域外の学校を選択した保護者では、肯定的な回答が否定的な回答より7.4%多く、意見が分かれている。

②学校選択制によって、あなたの地域の学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開等）が充実してきたと思いますか。

【地域団体関係者：問1】<1つだけ回答>

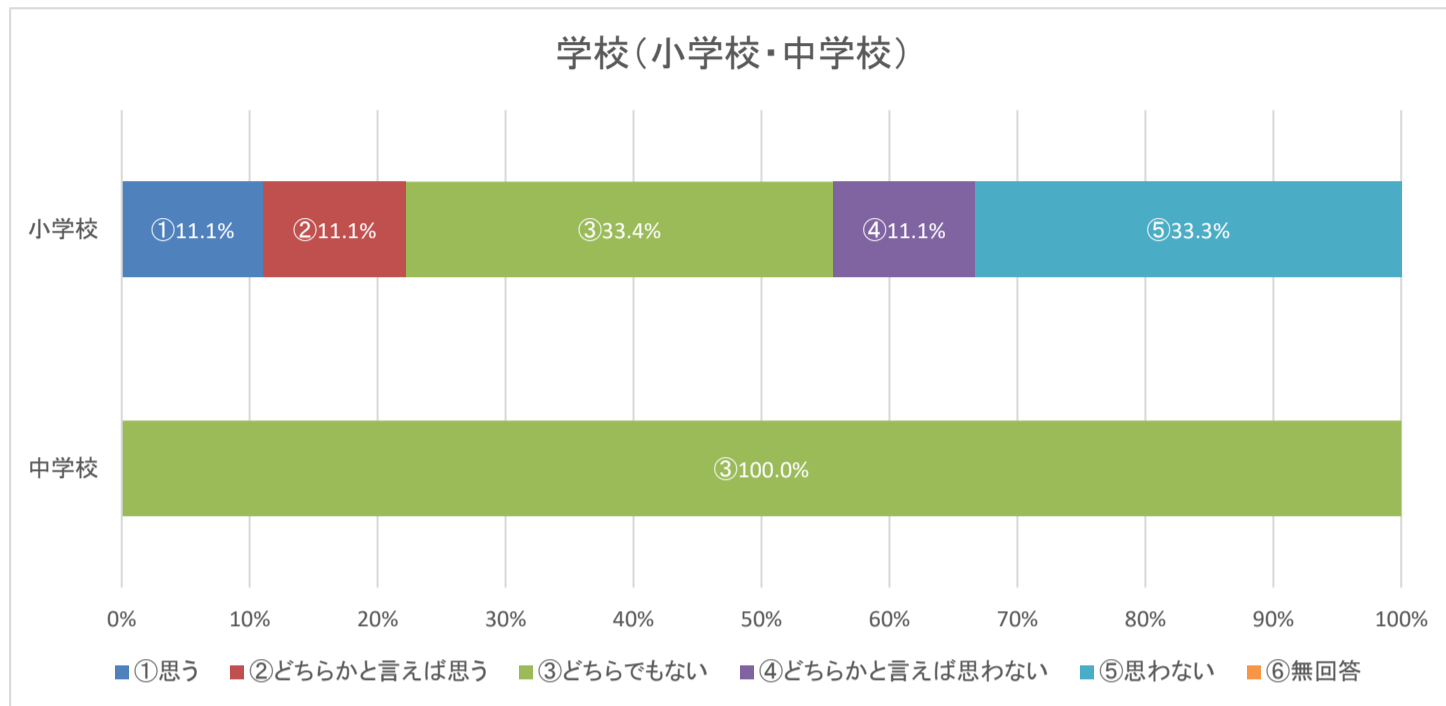


(分析)

小学校については、否定的な回答が最も多く、次いで「⑤分からない」となっており、学校選択制によって保護者や地域住民の参加促進の取組が充実してきたとの意見は少ない。
中学校についても、「①思う」8.0%に比べ「④思わない」が24.0%と多いが、肯定的な回答、否定的な回答、「⑤分からない」とも割合が拮抗している。

③学校選択制によって、あなたの学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開等）が充実してきたと思いますか。

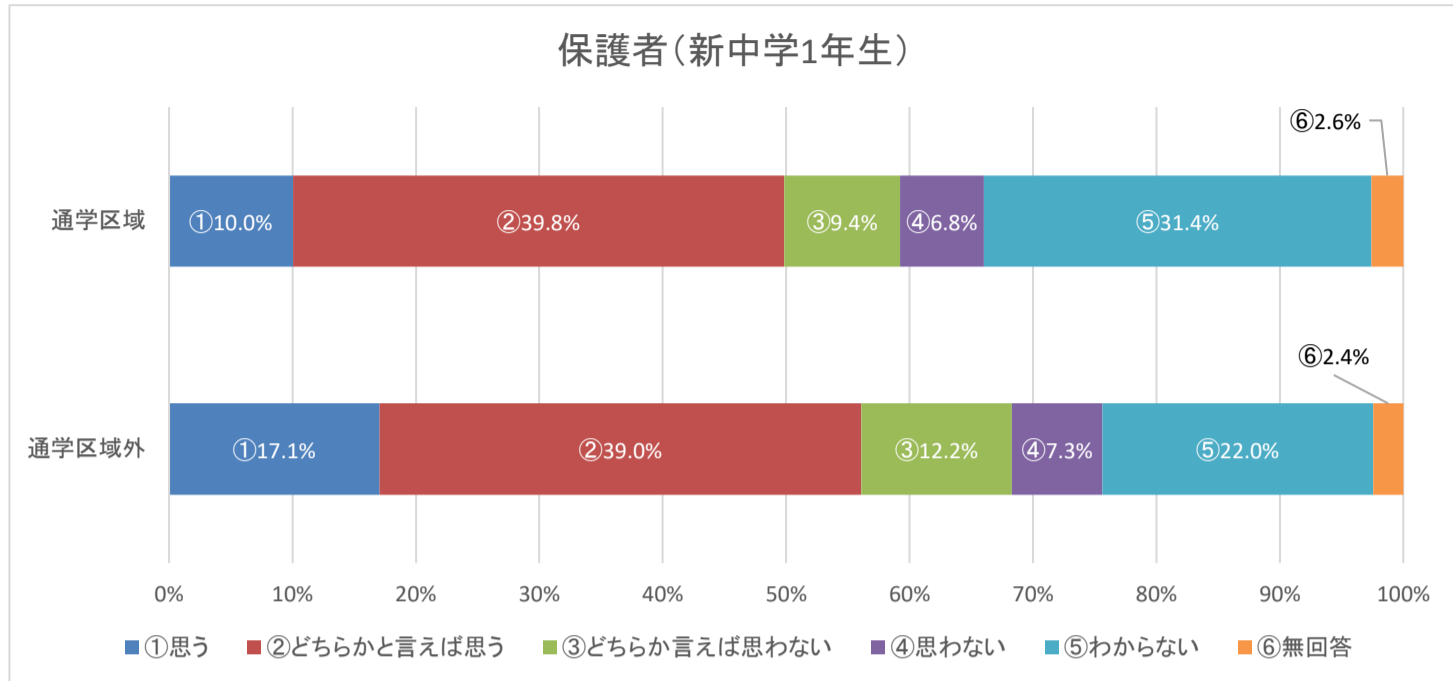
【学校状況調査:問5】<1つだけ回答>



(分析)
 小学校では、否定的な回答が44.4%と最も多く、次いで「③どちらでもない」が33.4%、肯定的回答が22.2%となっており、学校選択制によって保護者や地域住民の参加促進の取組が充実してきたとの意見は少ない。また、中学校では、全校が「③どちらでもない」と回答しており、学校選択制によって取組が充実してきたとは捉えられていない。

④学校選択制によって、学校における情報発信(学校だより、ホームページの更新など)が充実してきたと思いますか。

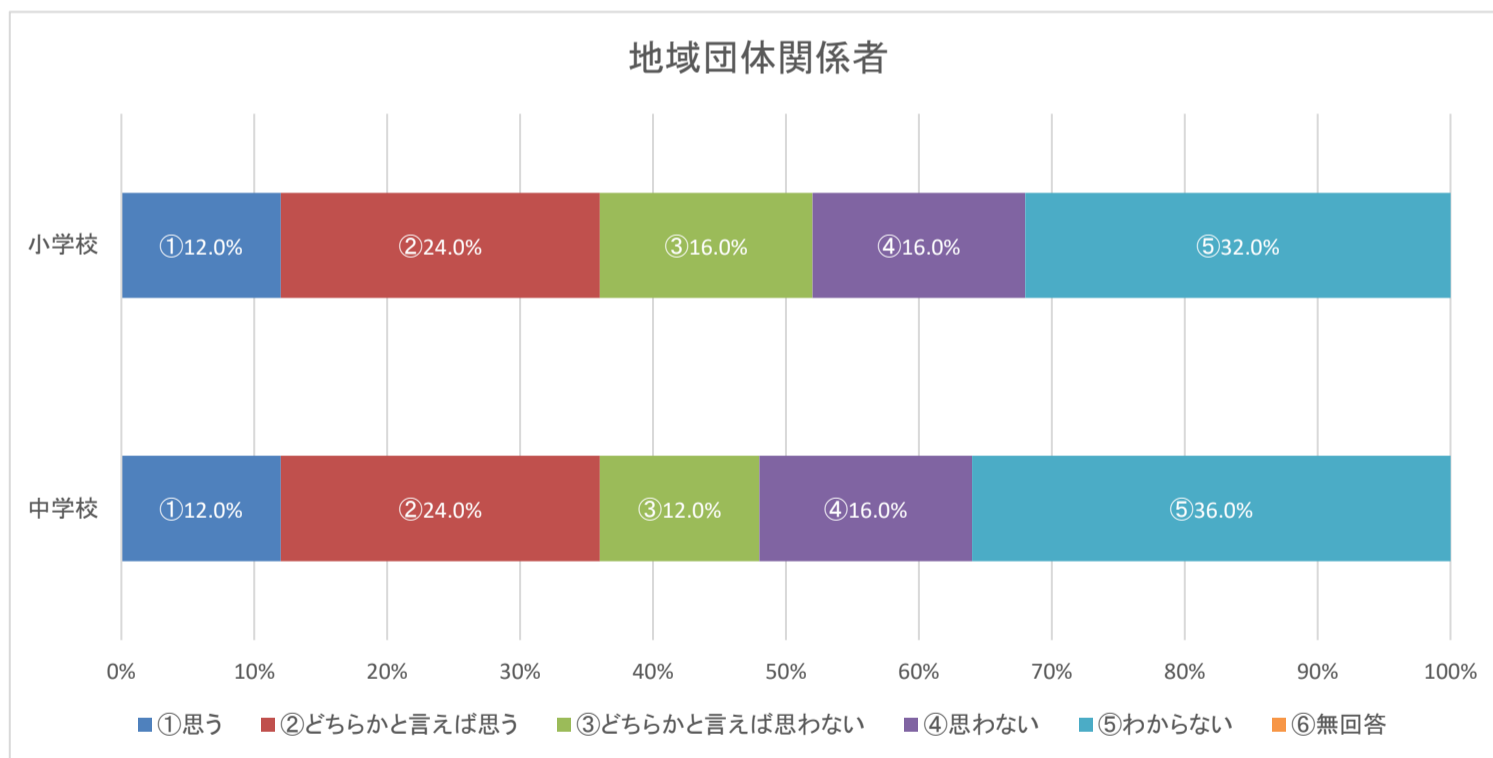
【保護者アンケート(新中学1年生):問26】<1つだけ回答>



(分析)
肯定的な回答である「①思う」、「②どちらかと言えば思う」の割合は、通学区域(49.8%)よりも、通学区域外(56.1%)の学校を選択した保護者の方が高いが、ともに否定的回答(通学区域16.2%、通学区域外19.5%)を大きく上回っており、学校選択制によって、学校における情報発信が充実してきたとの回答が多い。

⑤学校選択制によって、あなたの地域の学校における情報発信(学校だより、ホームページの更新など)が充実してきたと思いますか。

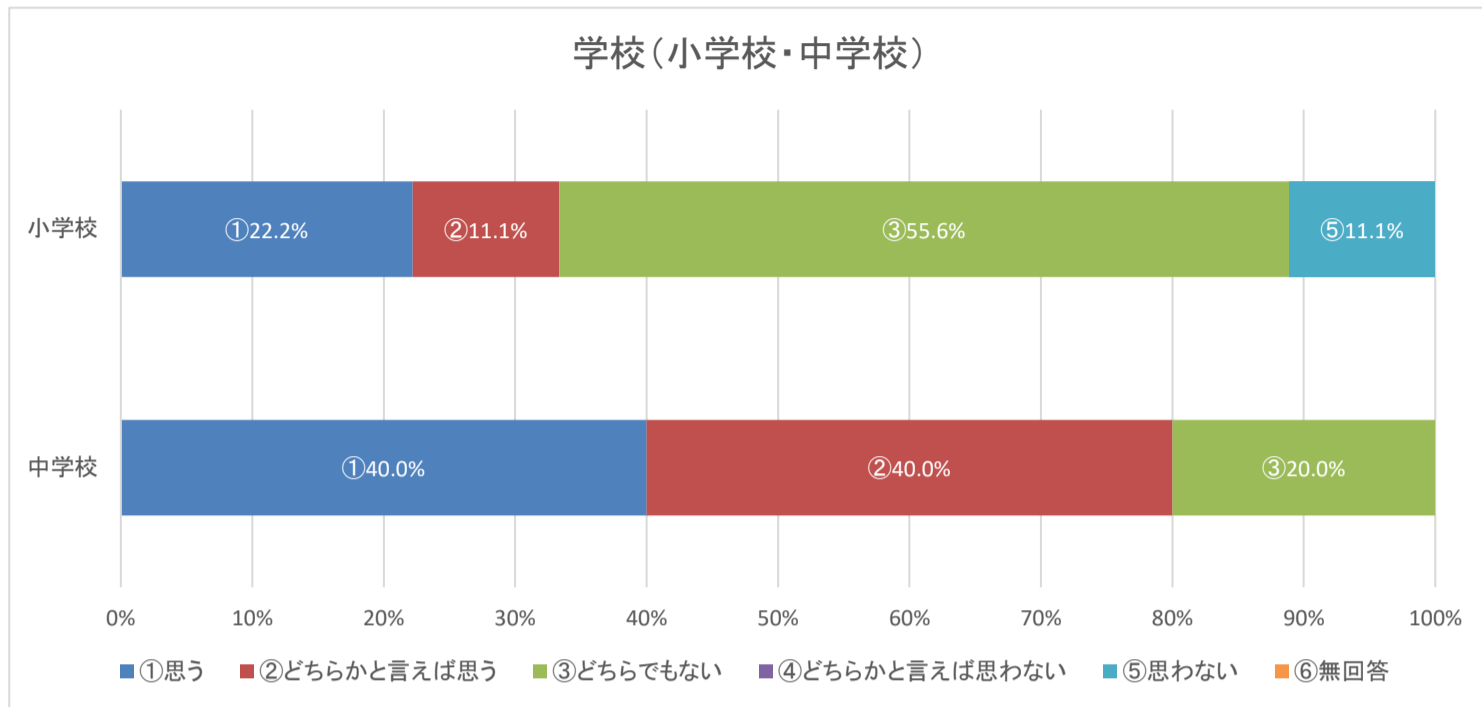
【地域団体関係者:問2】<1つだけ回答>



(分析)
小学校、中学校ともに「⑤わからない」との回答が約3分の1あるが、肯定的な回答が否定的な回答を上回っており、学校選択制によって、学校における情報発信が充実してきたとの回答がやや多い。

⑥学校選択制によって、あなたの学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたと思いますか。

【学校状況調査:問7】<1つだけ回答>



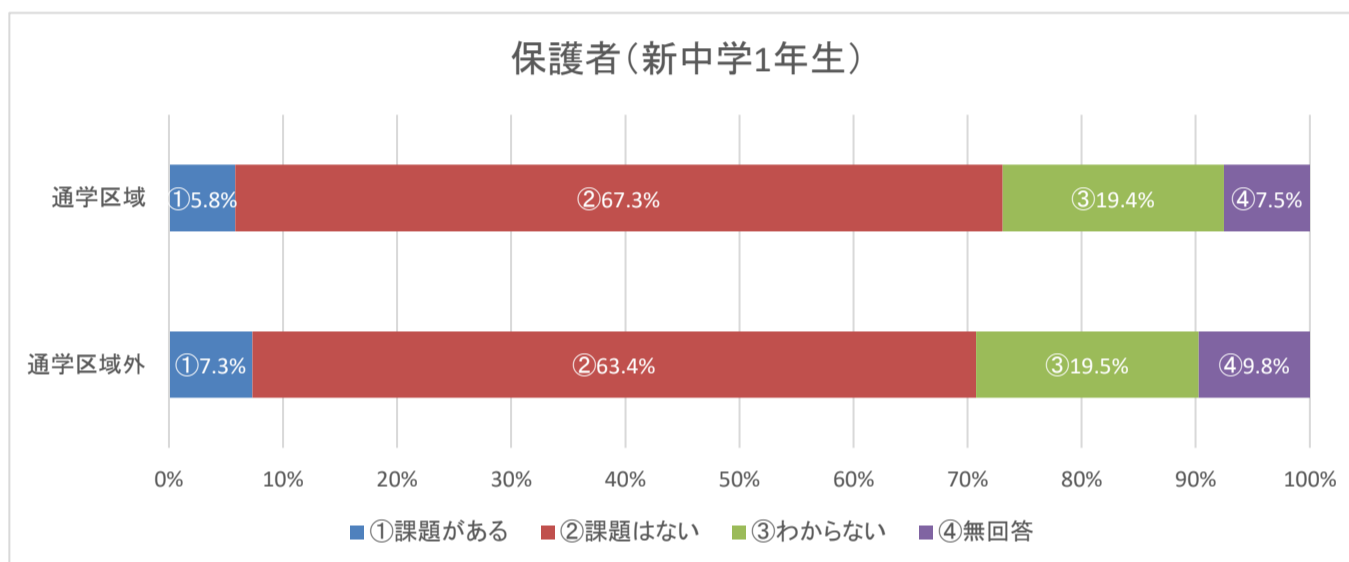
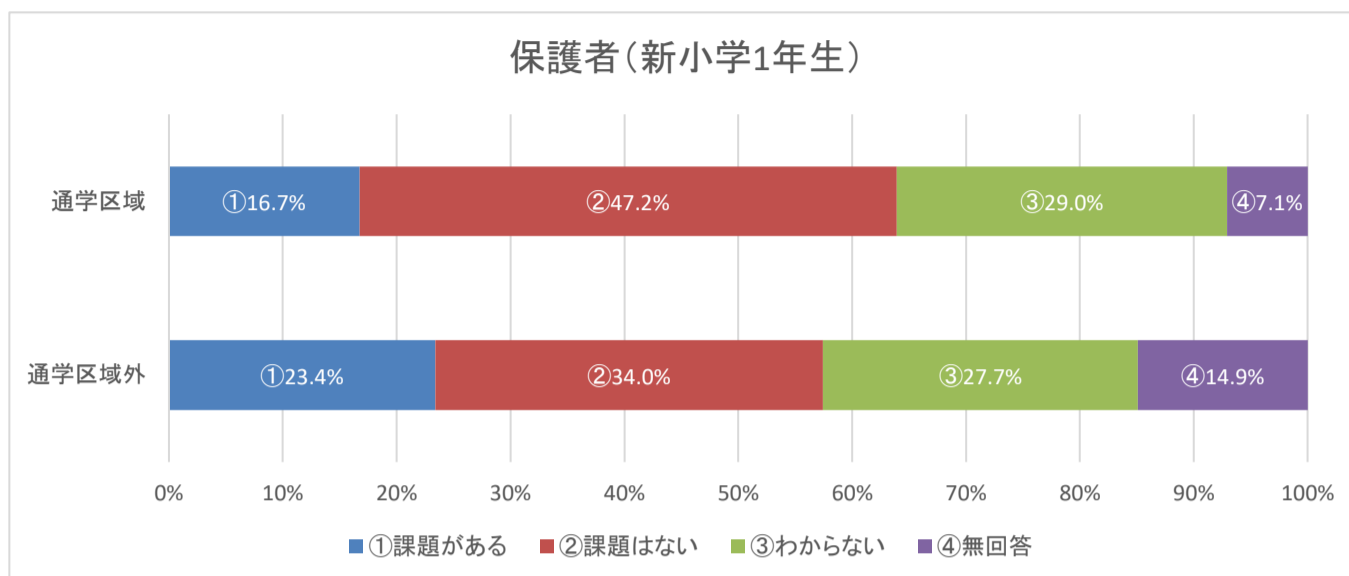
(分析)
 小学校は「③どちらでもない」が55.6%と最も多いが、肯定的な回答（「①思う」、「②どちらかと言えば思う」）が33.3%と、否定的な回答（11.1%）を大きく上回っている。中学校は肯定的な回答が80.0%と大部分を占めており、小中学校とも、学校選択制によって、学校における情報発信が充実してきたとの回答が多い。

【視点⑤総括】
 学校選択制によって、授業参観や学校公開など、保護者や地域住民の参加が進むような取組が充実してきたかとの質問に対して、保護者や地域団体関係者では関連性の有無について意見が分かれているが、学校では学校選択制と関連しているとは認識されていない。
 また、学校選択制による学校の情報発信（学校だより、ホームページの更新など）の充実については、保護者、地域団体関係者、学校とも肯定的な回答が多い。

【視点⑥】 児童生徒の通学の安全に課題が生じていないか

①あなたのお子さんの通学の安全に課題が生じていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問15、保護者アンケート(新中学1年生):問15】<1つだけ回答>



【具体的な課題及び改善のアイデア】

○具体的な課題（抜粋）

- ・歩道が少ない、不審者情報が多い、交番がない、人通りの少ない道がある、信号のない交差点が多い
- ・民家が少ない、街灯がない道は、冬場は夕方でも真っ暗で大人でも怖い時がある。
- ・午前のみ学校、一度帰宅、部活の場合はもう一度登校（送迎不可）で何往復もするのは校区外からなので大変そう。
- ・見守り隊という地域の方々に頼りすぎ。

○改善のアイデア（抜粋）

- ・人通りが少ない道や会社、工場の多い道に防犯カメラの設置や街灯の設置
- ・地域住民による見守り声かけ等が必要
- ・見守り器など、個人に持たすべき。（校内に入れば親に通知が入るなど）
- ・警察も含めて、たくさんの大人が子供達に気を付けてあげる
- ・同じ方向へ帰る登校班がないので、集団下校できると安心する。
- ・登下校の通知サービスを取り入れてほしい。
- ・通学路の信号には、押しボタンがあればいいと思う。

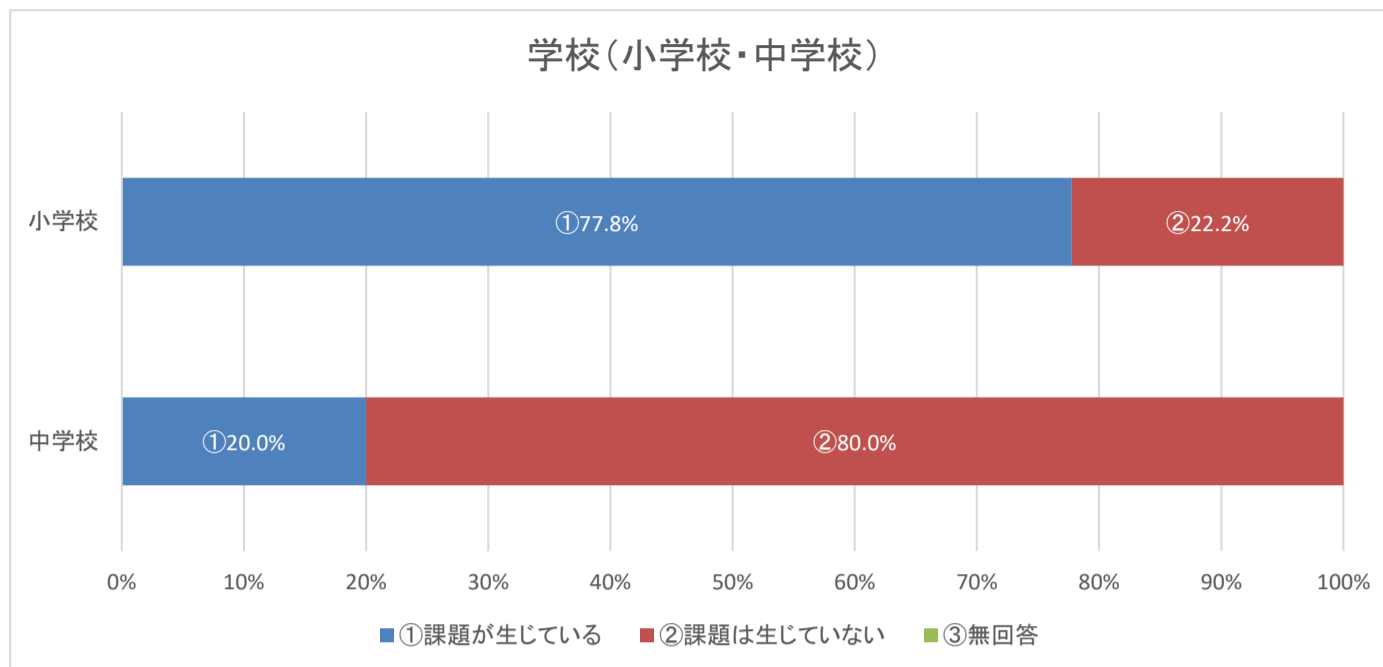
（分析）

小学校では、通学区域外の学校に児童が通学している保護者の23.4%が「①課題がある」と回答しており、通学区域よりも6.7%多いが、「②課題はない」（34.0%）、「③わからない」（27.7%）と比べると少なくなっている。

中学生では、「①課題がある」が通学区域5.8%、通学区域外7.3%と少なく、「②課題はない」との回答が通学区域67.3%、通学区域外63.4%と大半を占めている。

②あなたの学校において、学校選択制により、通学の安全に課題が生じていますか。

【学校状況調査:問9】 <1つだけ回答>



【具体的な課題事例】

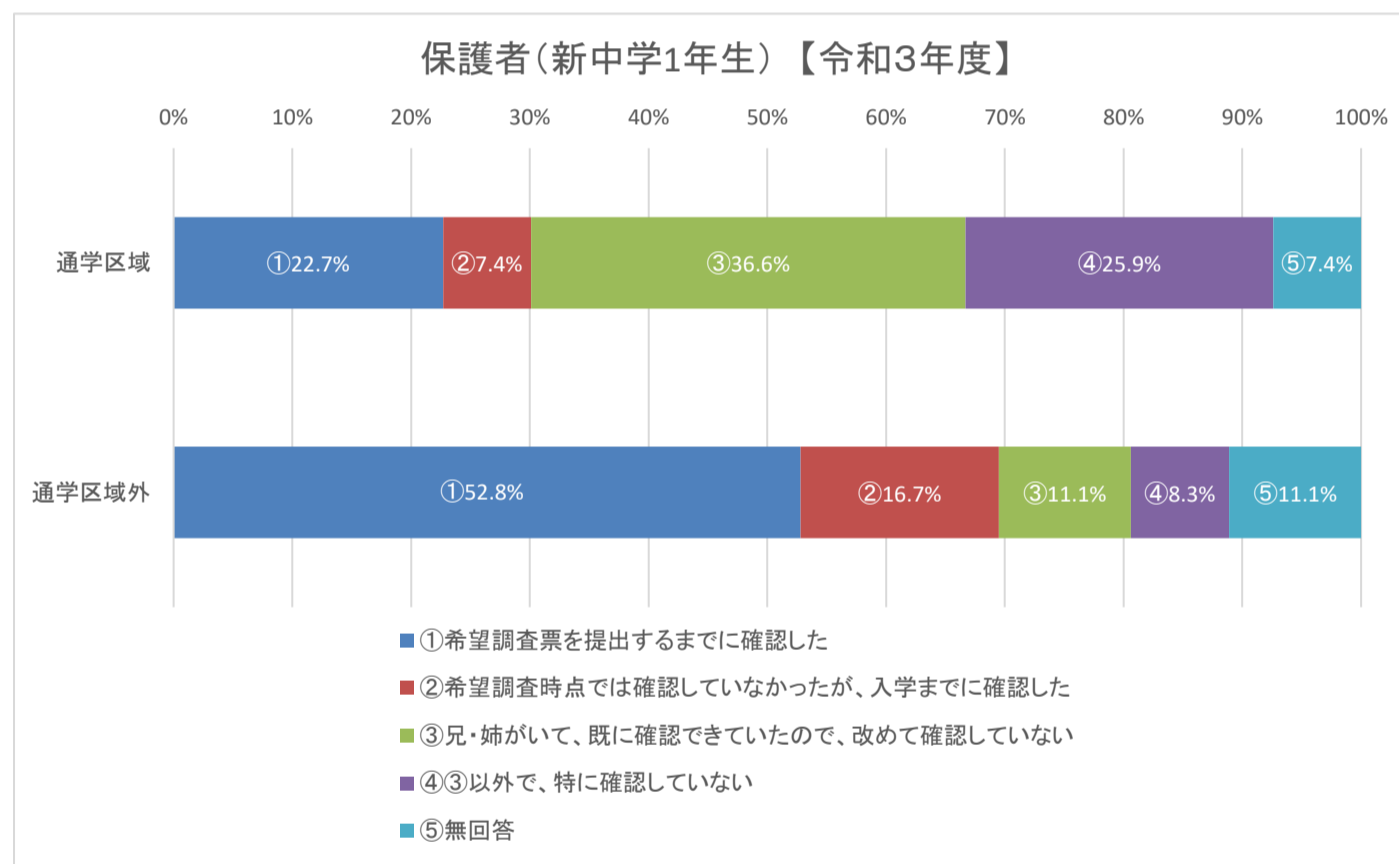
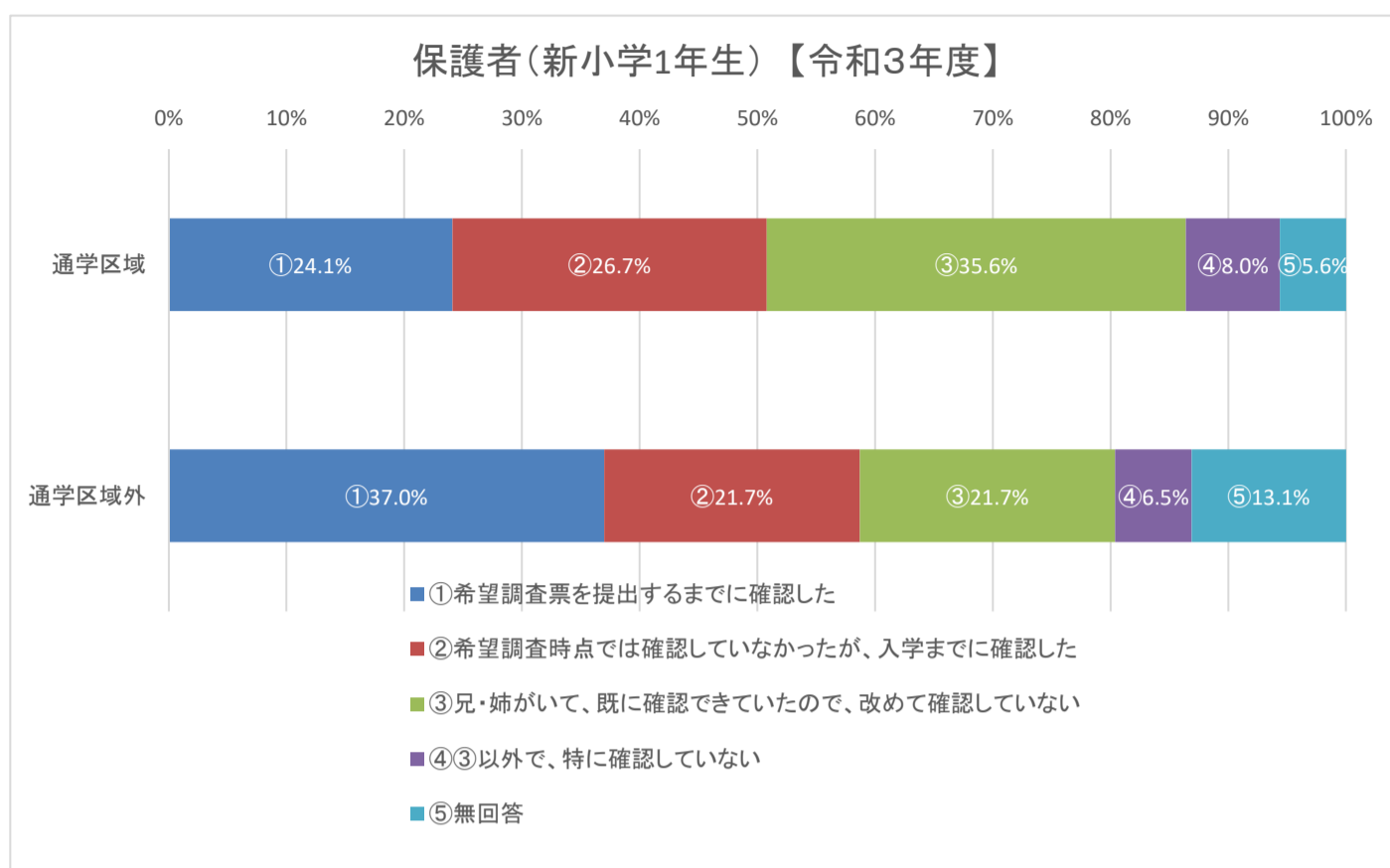
- 登校後体調不良等で帰宅させるとき、交通機関を使用させなければならないこと。
- 緊急的な下校の時に、校区外の子どもは集団下校から外れてから一人で下校することになる。
- 本来校区外からの通学は保護者の責任において行われるものであったはずなのに、守られていないことが常態化している。

(分析)

小学校では、緊急下校の際に校区外の児童が集団下校できずに一人で下校することなど、課題を感じており、9校中7校が「①課題が生じている」と答えた。中学校は5校中4校が「②課題は生じていない」と答えている。

③通学路の安全や通学距離、通学に要する時間等について確認されましたか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問6、保護者アンケート(新中学1年生):問6】<1つだけ回答>



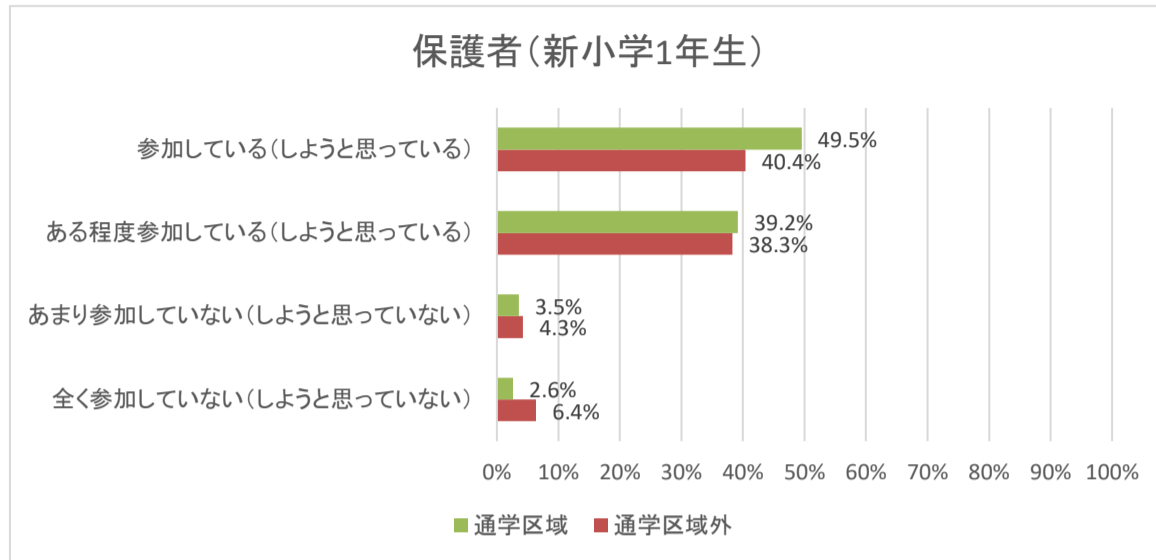
(分析)
 通学区域外の学校を選択した保護者のうち、小学校では37.0%が、中学校では52.8%が希望調査票を提出する前に通学路の安全や通学距離、通学に要する時間等について確認しており、いずれも通学区域の学校を選択した保護者(小学校24.1%、中学校22.7%)より高い割合となっている。また、兄・姉がいて既に確認済みや入学までに確認した保護者を含めると、小学校(通学区域86.4%、通学区域外80.4%)・中学校(通学区域66.7%、通学区域外80.6%)ともに、通学路の安全等を確認しているとの回答が大多数を占めている。

【視点⑥総括】
 学校選択制で通学区域外の学校を選択した保護者は、小学校では80.4%が入学までに通学路の安全や通学距離などを確認していたが、実際に通学してからは、23.4%が「①課題がある」と感じており、小学校でも9校中7校が「①課題がある」と感じている。
 中学校では、通学区域外の学校を選択した保護者の80.6%が入学までに通学路の安全等を確認しており、実際に通学してからも「①課題がある」と感じる割合が7.3%と少なく、中学校5校中4校が「②課題はない」と答えている。

【視点⑦】学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないか

①あなたは、お子さんが通っている学校の行事(運動会、授業参観など)や、PTAの活動(親子レクリエーション、登下校の見守りなど)に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますか。

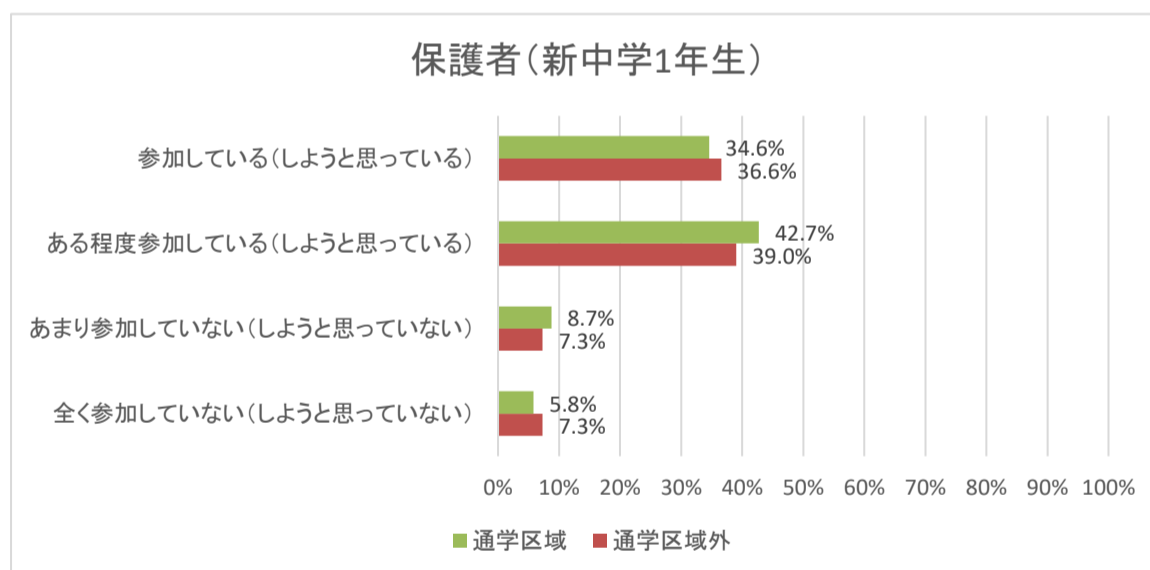
【保護者アンケート(新小学1年生):問13、保護者アンケート(新中学1年生):問13】<1つだけ回答>



【理由】(抜粋)

- ・子どもと学校の様子を知りたいから。(参加)
- ・子どもの成長を見たいから。(参加)
- ・保護者として参加することは当然だと思うから(参加)
- ・フルタイムで働いているため時間がない。(不参加)

(分析)
学校の行事やPTAの活動に「参加している(しようと思っている)」、「ある程度参加している(しようと思っている)」と答えた保護者は、通学区域で88.7%、通学区域外で78.7%となっており、多くの保護者が行事等に参加、もしくは参加する意思を示している。



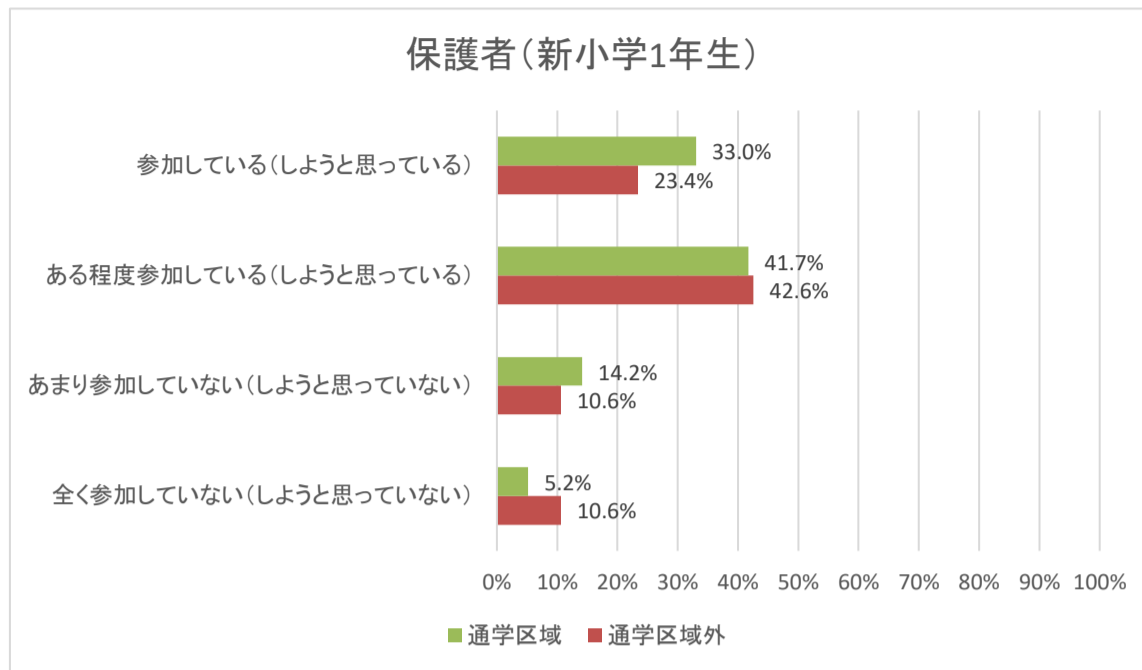
【理由】(抜粋)

- ・子どもに関われる貴重な時間。今しかできない(経験できない)ことだから。(参加)
- ・子どもの学校での生活や状況を知りたい。家で見える姿と学校で見える姿は違うと思うから。(参加)
- ・PTAについては義務感から。正直負担である。(参加)
- ・平日は仕事があるので参加したくてもできない(不参加)

(分析)
学校の行事やPTAの活動に「参加している(しようと思っている)」、「ある程度参加している(しようと思っている)」と答えた保護者は、通学区域で77.3%、通学区域外で75.6%といずれも高い割合となっている。

②あなたのお子さんは、住んでいる地域の行事(祭り等)に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますか。

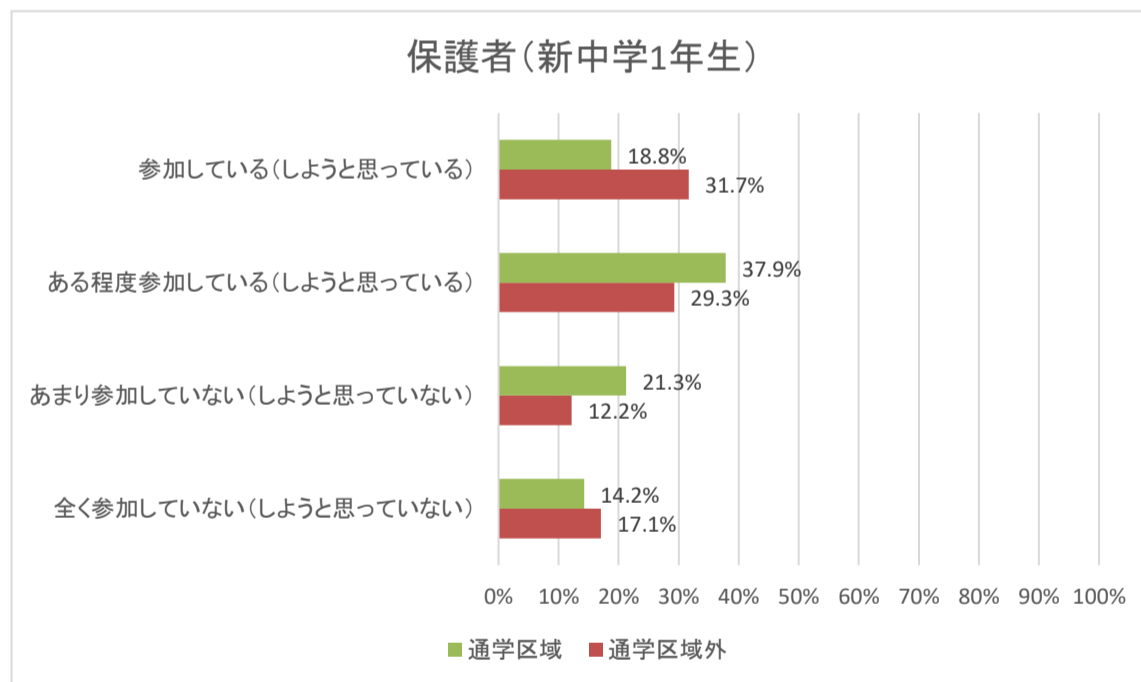
【保護者アンケート(新小学1年生):問14、保護者アンケート(新中学1年生):問14】<1つだけ回答>



【理由】(抜粋)

- ・子どもが楽しみにしている。(参加)
- ・伝統・文化に参加することによって地域のつながりを大事にしたい。(参加)
- ・情報が無い。学区外に通っているからなのか、情報はまわってこない。(不参加)

(分析)
住んでいる地域の行事に「参加している(しようと思っている)」、「ある程度参加している(しようと思っている)」と答えた保護者は、通学区域74.7%に対して、通学区域外66.0%といずれも高い割合となっている。



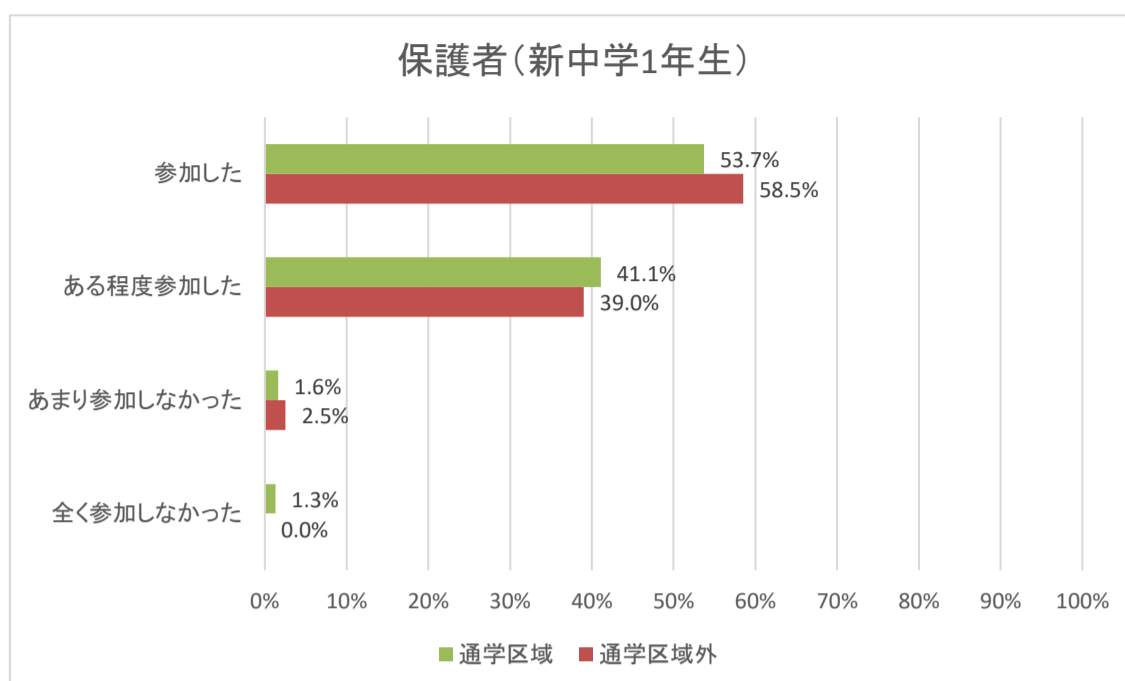
【理由】(抜粋)

- ・地域の方々や学校以外のお友達と交流できるから。(参加)
- ・部活動中心なので、特に興味のある行事があれば参加する。(参加)
- ・時間や本人の興味があまりない。(不参加)

(分析)
住んでいる地域の行事に「参加している(しようと思っている)」、「ある程度参加している(しようと思っている)」と答えた保護者は、通学区域56.7%に対して、通学区域外61.0%となっており、いずれも小学校の割合(通学区域74.7%、通学区域外66.0%)より低いものの、過半数が参加もしくは参加の意向であることが分かる。

③あなたは、お子さんが卒業した小学校の行事(運動会、授業参観など)や、PTAの活動(親子レクリエーション、登下校の見守りなど)にどの程度参加しましたか。

【保護者アンケート(新中学1年生):問20】<1つだけ回答>



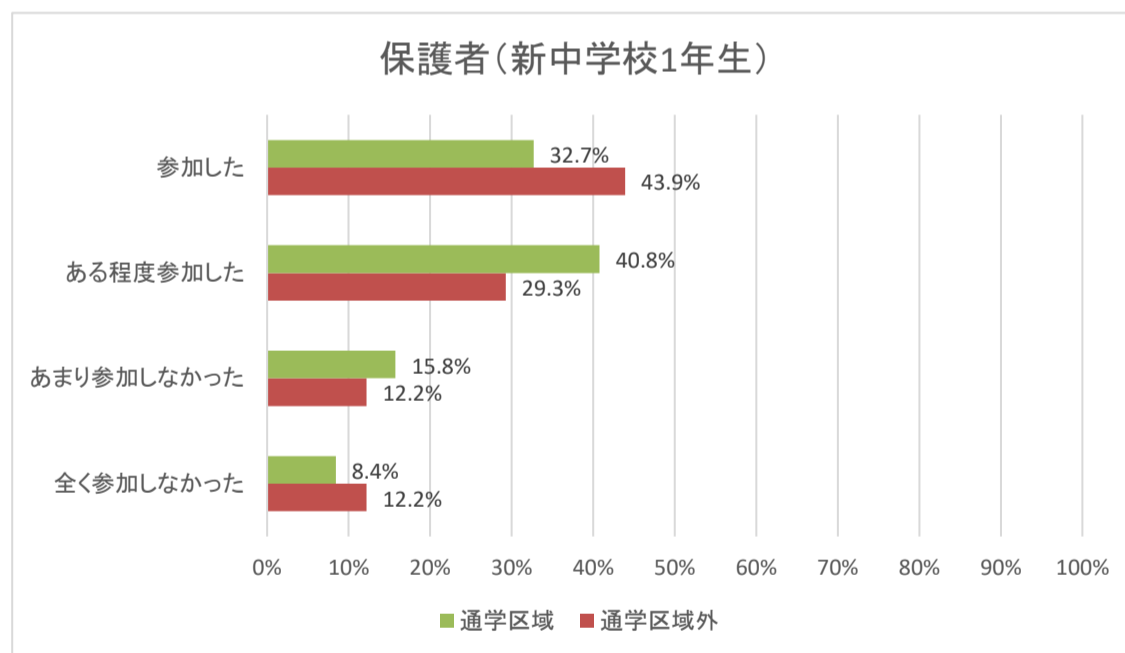
【理由】(抜粋)

- ・色々な情報を得ることもできるし、子どもと関われる貴重な時間だと思うので。(参加)
- ・PTAの役員をしてるから。(参加)
- ・仕事が優先になるため、なかなか参加できなかった。(不参加)

(分析)
通学区域、通学区域外とも、子が卒業した小学校の行事やPTAの活動に「参加した」、「ある程度参加した」と答えた保護者は合わせて9割以上となっている。

④あなたのお子さんは、小学校のときに住んでいる地域の行事(祭り等)に参加していましたか

【保護者アンケート(新中学1年生):問21】<1つだけ回答>



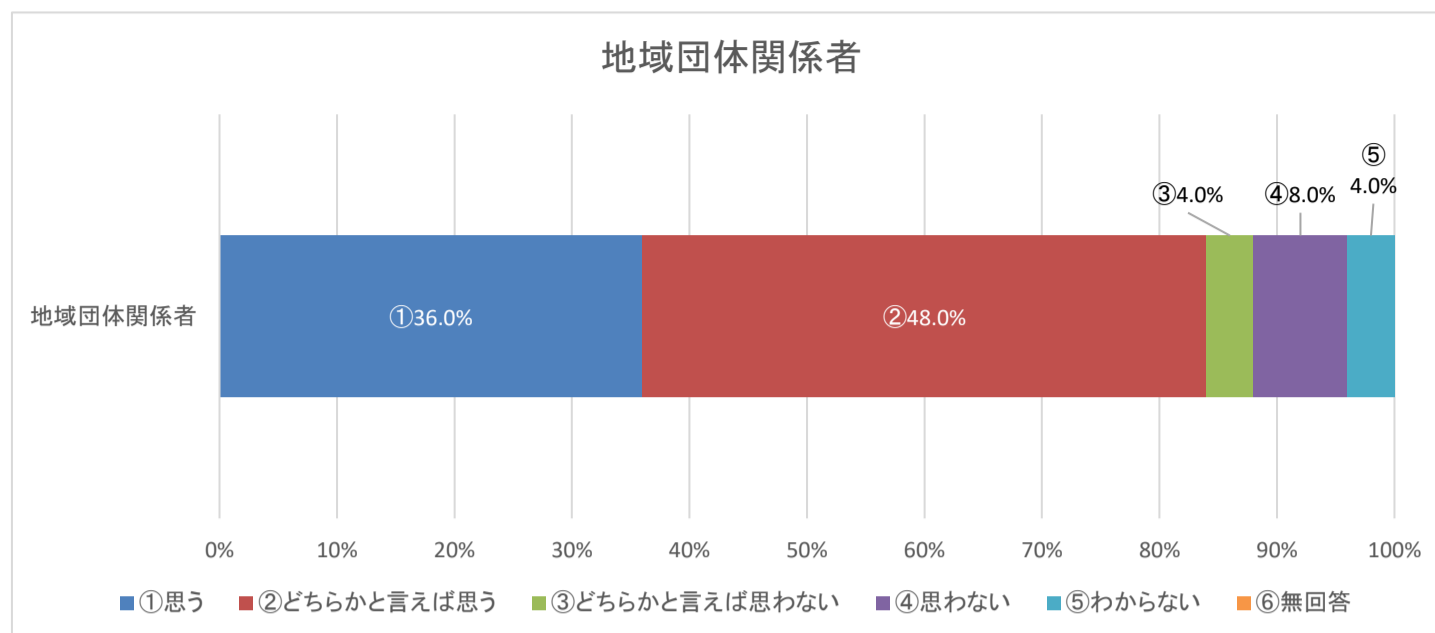
【理由】(抜粋)

- ・子供会に入っていたので参加することが多かった。(参加)
- ・習い事が忙しいので、参加したかったができなかった。(不参加)

(分析)
小学校のときに住んでいる地域の行事に「参加した」、「ある程度参加した」と答えた保護者は、通学区域で73.5%、通学区域外で73.2%と、ともに7割強を占めており、「参加した」割合だけで見ると通学区域外の方が11.2ポイント高い結果となっている。

⑤「地域の繋がりが薄くなっている」という意見がありますが、あなたはどのように思いますか。

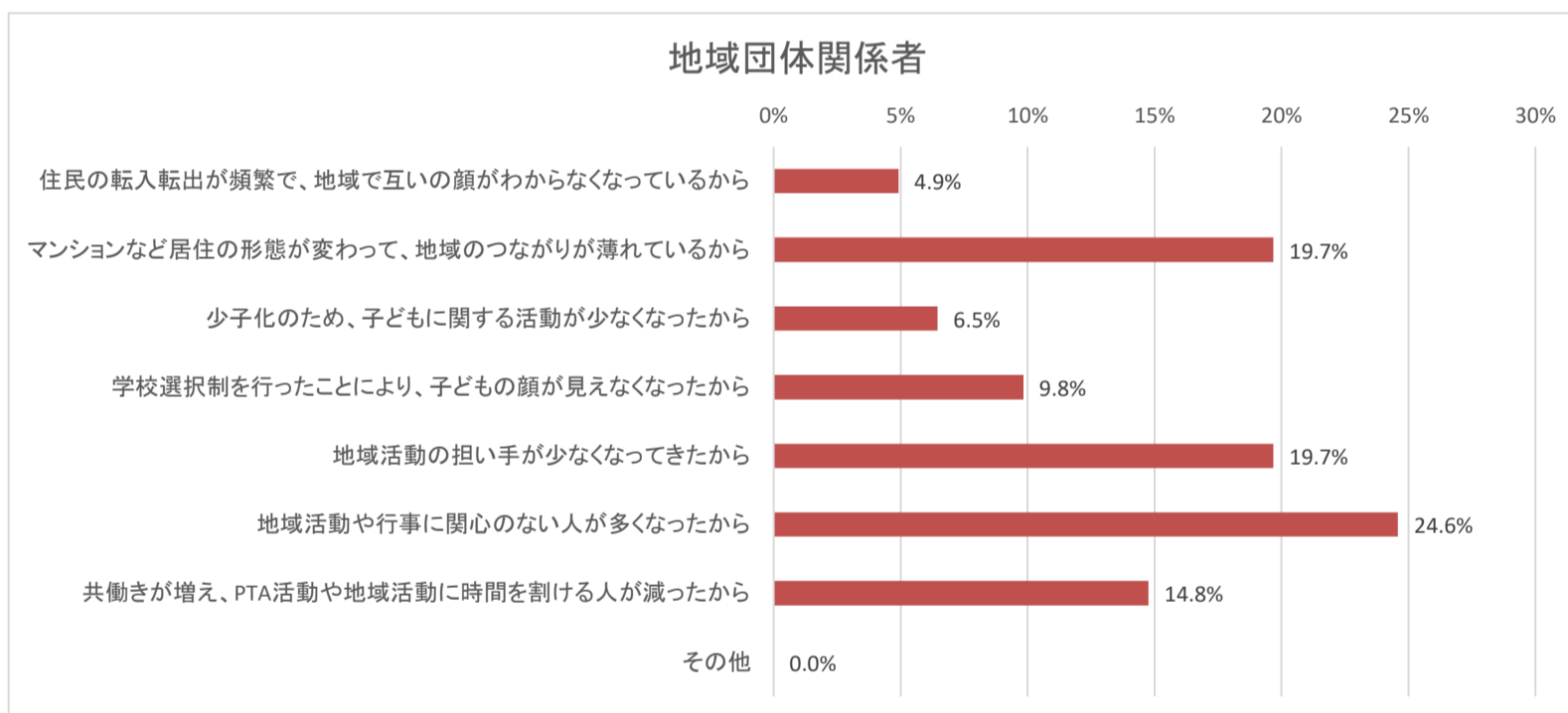
【地域団体関係者アンケート:問3】 <1つだけ回答>



(分析)
「①思う」、「②どちらかと言えば思う」の合計が84%と、「地域の繋がりが薄くなっている」と感じている地域団体関係者は多い。

⑥上記の設問で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」とお答えいただいた方にお尋ねします。それは何が原因だと思いますか。

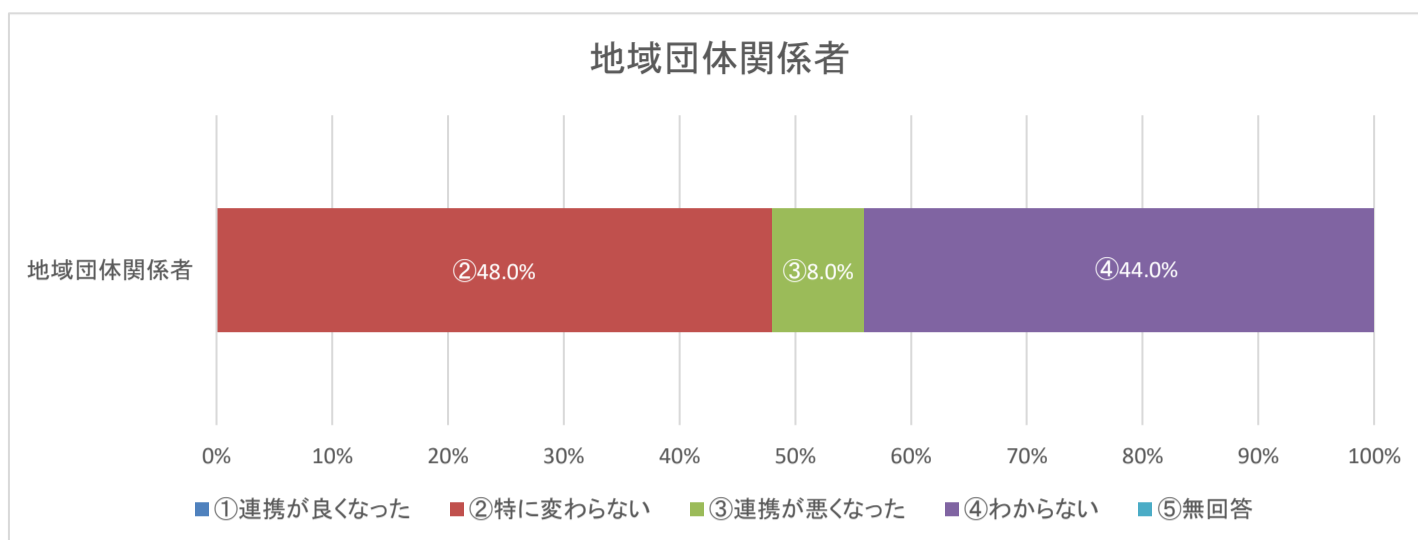
【地域団体関係者アンケート:問4】 <3つまで回答可>



(分析)
「地域の繋がりが薄くなっている」原因として、「地域活動や行事に関心のない人が多くなった」(24.6%)や「地域活動の担い手が少なくなってきた」(19.7%)、「マンションなど居住の形態が変わって、地域のつながりが薄れている」(19.7%)を理由にあげる人が多い。

⑦学校選択制の導入により、あなたの地域における学校と地域の連携にどのような影響がありましたか。

【地域団体関係者アンケート:問5】<1つだけ回答>



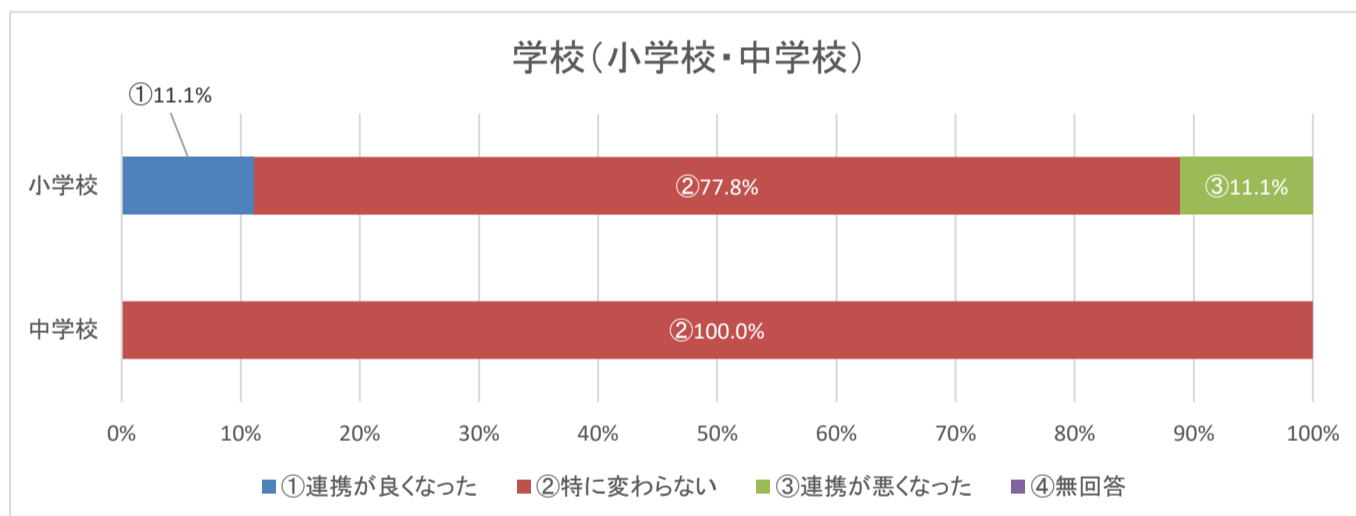
【そのように考えた具体的な出来事など】

- ・選択制導入時と、地域活動協議会発足時が重なり、何が影響しているのかがわからない。(わからない)
- ・他地域に居住の世帯について情報が必要な時、近隣や地域団体への要請が行き届かない。(連携が悪くなった)

(分析)
 学校選択制導入によって、学校と地域の連携に影響があったかについて、「②特に変わらない」が48%と最も多く、次いで44%が「④わからない」と回答されている。
 また、「③連携が悪くなった」が8.0%あるが、「①連携が良くなった」との回答は0%となっている。

⑧学校選択制の導入により、あなたの学校における学校と地域、保護者の連携にどのような影響がありましたか。

【学校状況調査:問11】<1つだけ回答>



【そのように考えた具体的な出来事など】

- ・学校選択制では、登下校の心配があること以外は変化はない。校区外の児童の家庭(家の確認)はしにくい。(変わらない)
- ・児童の流出に対しての危機感からか、地域から声かけなどしていただけるなど協働体制は高まった。(良くなった)
- ・子ども会に所属する際にどこの町会に加入するか。(悪くなった)

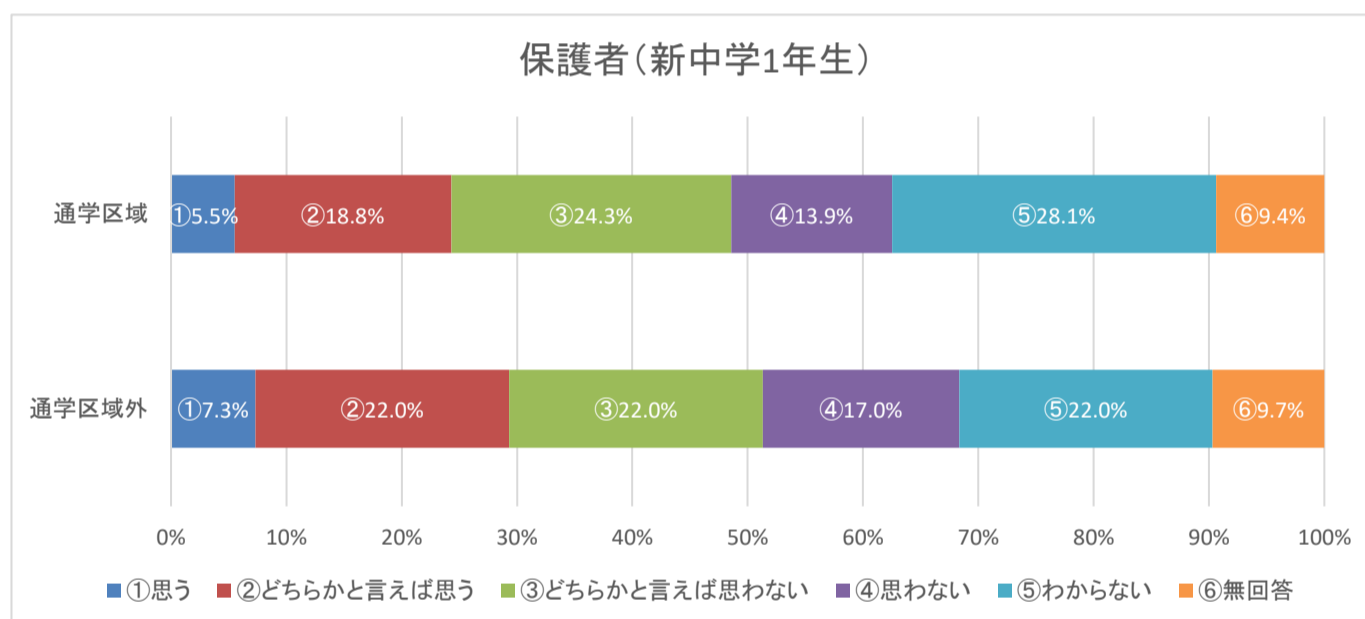
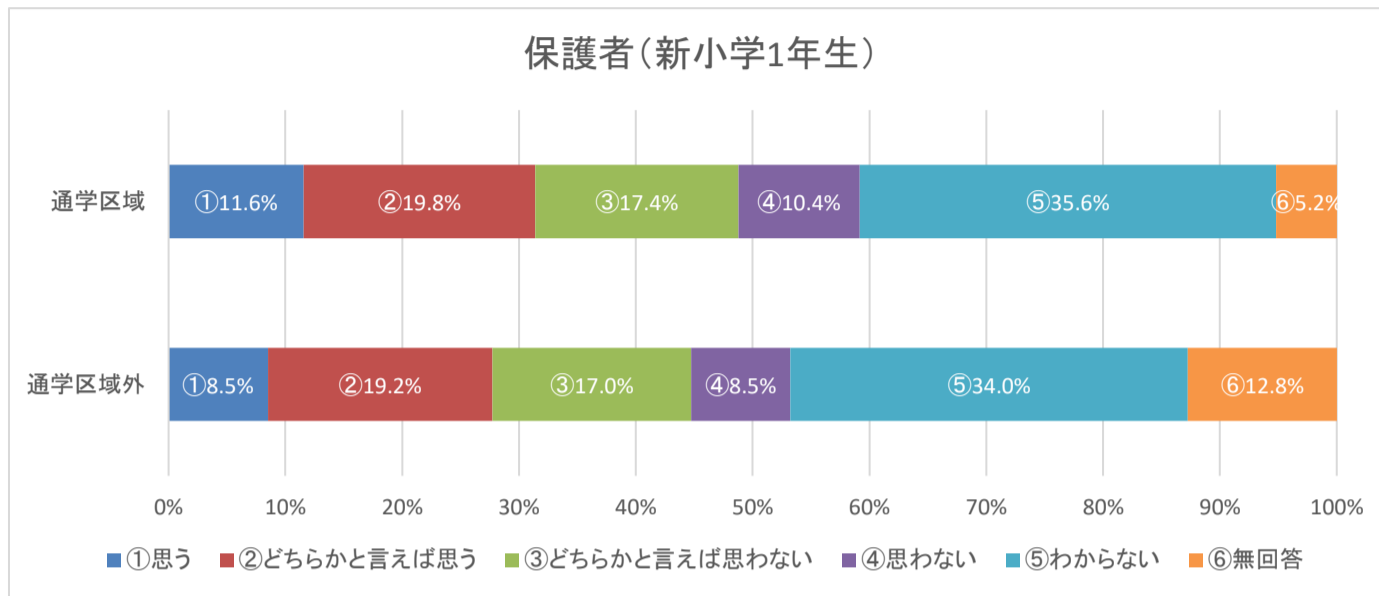
(分析)
 小学校は9校中7校が、中学校では5校全てが「②特に変わらない」と回答しており、学校選択制の導入による学校と地域、保護者の連携への影響は感じていない。

【視点⑦総括】
 学校の行事やPTAの活動、地域の行事については、通学区域、通学区域外ともに参加に積極的な回答が多数を占めている。また、地域の繋がりが薄くなっていると感じている地域団体関係者が84%存在する状況で、学校選択制の導入による学校と地域、保護者との連携にかかる影響については、地域団体関係者、学校とも、「特に変わらない」と感じている割合が高い。

【視点⑧】 区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないか

①大阪市では、学校案内や学校説明会、学校公開等において、各校の情報を提供しています。あなたや他の方も含め、風評(うわさ)等による学校の選択が行われていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問16、保護者アンケート(新中学1年生):問16】<1つだけ回答>



【具体的な風評の内容】

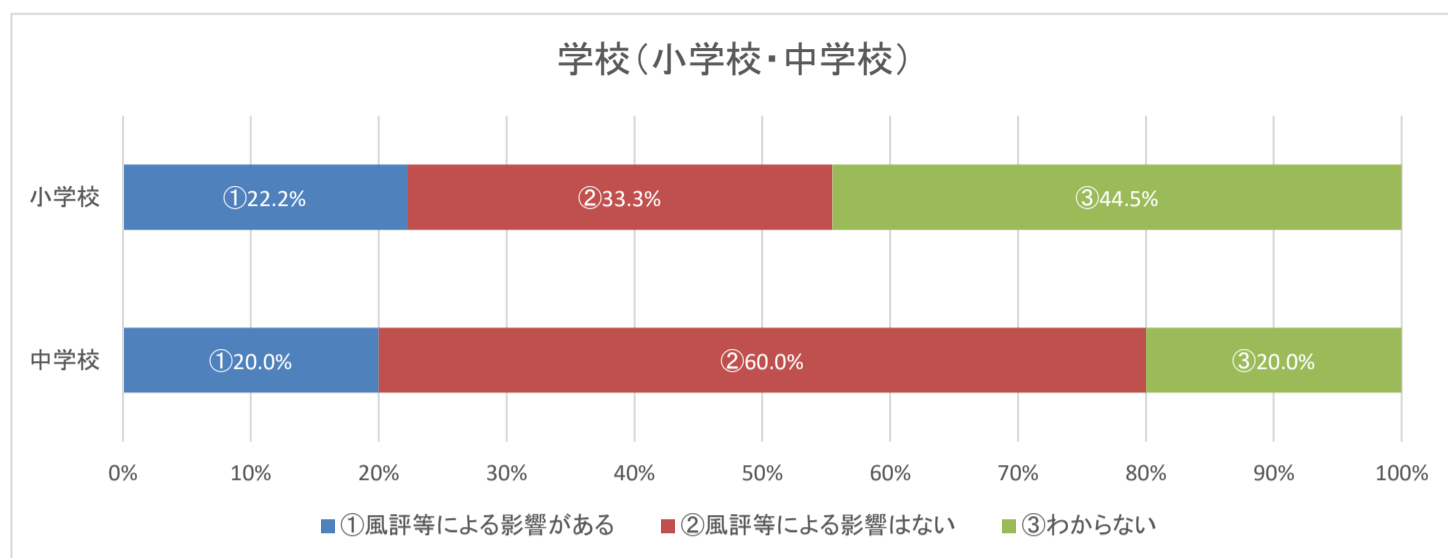
- ・〇〇小は学力が高い子が多い。
- ・お母さん方は、うわさ話ばかり。〇〇中学に行ったら良い高校に行けない、というよううわさも有り。
- ・校区内のマンモス校より生徒数の少ない学校の方が内申点を取りやすい。
- ・学力の格差。部活動の取り組み。
- ・〇〇小学校でGoogle検索すると、Googleの口コミ、情報サイトの口コミが上位に出てくる。

(分析)

小学校では、通学区域、通学区域外とも「⑤わからない」と答えた保護者の割合が最も多く、「①思う」「②どちらかと言えば思う」と、「③どちらかと言えば思わない」「④思わない」の割合が拮抗している。
 中学校では、通学区域、通学区域外とも「③どちらかと言えば思わない」「④思わない」が多く、次いで通学区域では「⑤わからない」が、通学区域外では「①思う」「②どちらかと言えば思う」が多くなっている。

②区や学校が提供する情報ではない風評(うわさ)等による学校選択によって、あなたの学校に影響がありますか。

【学校状況調査:問12】<1つだけ回答>



【そう考えた具体的な出来事等】

- ・近隣のよくない風評を真に受けて選ばれることが少なくない。
- ・学校選択制による入学者の増加。

(分析)

小学校では「③わからない」との回答が44.5%と最も多く、次いで「②風評等による影響はない」が33.3%、「①風評等による影響がある」と答えた学校は22.2%と比較的少なかった。
 中学校では「②風評等による影響はない」が60.0%と過半数を占め、「①風評等による影響がある」「③わからない」との回答は、それぞれ20.0%と比較的少なかった。

③学校選択にあたり、区役所や学校から提供されていた情報のほかに、どのような情報があればよかったですか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問17、保護者アンケート(新中学1年生):問17】<自由記述>

- ・特にない。(今のままで十分)
- ・生徒、保護者、先生の生の声。
- ・学級新聞、学年だよりなど、指導法や学校内での様子をもっと身近に感じられるもの。
- ・特色ある取組をもっと具体的に、複数知りたい。
- ・主な行事をくわしく知りたい(運動会の情報、修学旅行先など)
- ・具体的な授業内容と進捗、オンライン授業の活用レベル、習熟に係る情報、進路指導など。
- ・各学年の時間割(およその下校時間)、長期休み中の取組等の有無など。
- ・通学・登校にかかる時間の目安。集団登校の有無。
- ・特別支援学級の支援の方法や子どもの様子など。
- ・いじめの有無と対応など。
- ・不登校生徒にどのような対応をしているか(別室登校が可能かどうかなど)。
- ・クラブ活動等の内容。
- ・PTA活動がどの程度のものか。
- ・校則の詳細
- ・制服の金額や、入学に際しての費用、おおよそでもわかると用意しやすいと思う。
- ・校舎やトイレの改修計画など。

(分析)

記載された意見では、「特にない」や「今のままで十分」という記述が最も多かった。
 また、実際の通学者の意見や集団登校の有無、特色ある取組の具体など、より具体的に、詳細な情報を得たいとの意見も多かった。

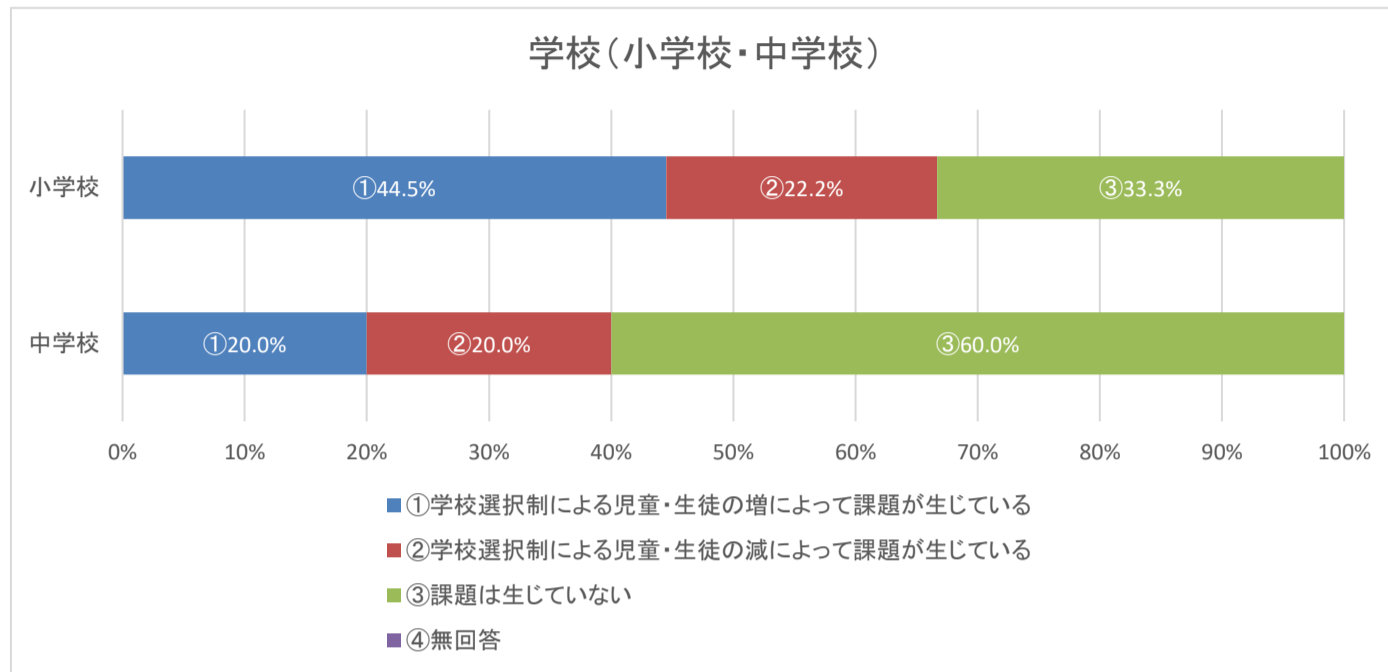
【視点⑧総括】

学校に関する風評(うわさ)等はある程度存在するものの、それによる学校選択への影響については、「分からない」や「影響はない」という意見が多く、その傾向は、通学区域、通学区域外とも、また小中学校ともに同様である。

【視点⑨】 学校選択制による児童生徒数の増減で、 教育的課題が生じていないか

①学校選択制による児童・生徒の増減で、あなたの学校に教育的課題が生じていますか。

【学校状況調査：問13】<1つだけ回答>



【理由】

◆学校(小学校・中学校)

○課題が生じている(主な意見)

- ・地域と連携した防災教育等の充実を図っているが、選択制で入学してきた子どもの避難先は当該校区ではない。
- ・例年、校区以外の児童からの増により、一人当たりの教員数が少なくなっている。
- ・本制度により他校へ流れる児童が多く、学級編成が減ったり圧縮などになったりして、計画的な人員の編成ができない。
- ・新1年生の学級編成に影響が生じる。教室の確保ができない。
- ・PTA活動や祭礼等の地域的行事で他の中学校に通っている家庭に協力を求めることはできず、人員確保が難しい。
- ・体育大会などの行事で、生徒数が減少しているために競技が成立しなかったり、クラス対抗で何かをするというのが難しくなってきたりしている。

(分析)

小学校では、災害時の避難先や学級編成などで、生徒数の増減により「課題が生じている」と回答する学校が9校中6校と多く、中学校では5校中2校がPTA活動や行事実施などで、生徒数の増減により「課題が生じている」と答えているが、3校は「課題は生じていない」と回答した。

【視点⑨総括】

小中学校で傾向に差があるが、合計14校中8校が、学校選択制による児童生徒数の増減により「課題が生じている」と回答しており、課題を感じている学校は少なくない。